



2

特集 保健師新時代

- 4 News&Topics
- 6 新任教職員紹介
- 7 令和6年度入試結果
- 8 学友会役員紹介/クラブ・サークル活動
- 9 新入生インタビュー
- 10 令和5年度 著書論文歴
- 14 令和5年度 学会発表
- 18 決算・予算・事業報告・事業計画
- 23 国際交流/Library/基本理念/教育目標/将来ビジョン
- 24 令和7年度 入試概要/熊本大夢基金

令和7年度 公衆衛生看護学専攻科開設

熊本保健科学大学は令和7(2025)年度、保健師養成を目的とした公衆衛生看護学専攻科を開設します。看護師免許の取得者(見込み者含む)で、大学を卒業(あるいは卒業見込み)した人が対象。修学年限は1年で定員は20人。保健師としての高度な専門知識と実践力をもって地域社会の健康増進に寄与するとともに、将来、リーダーシップを発揮できる人材の養成を目指します。保健師養成のための専攻科開設は、九州の大学では初めてです。



↑ 公衆衛生看護学専攻科
入試概要ページはこちら

今なぜ保健師？

乳幼児からお年寄りまで…地域の健康を守る

私たちが日常生活を営む中で、保健師の活動に触れる機会といえば、例えば働いている方なら職場での健康診断、また、子どもを持つ人たちであれば市町村での乳幼児健診や育児相談といったところではないでしょうか。

保健師の活動の対象となるのは、地域で生活している全ての人々です。何らかの障がいや有し、療養生活を送っている人たちはもちろんのこと、健康な人たちも対象にしています。

保健師は、これら乳幼児から高齢者まで全ての年齢層の人たちに對して、健康診査や健康教育による健康の保持・増進の取り組み、あるいは、住み慣れた地域での安全で安心な療養生活を守るため、様々な療養生活上の困りごとをくみあげ、病状を悪化させないための対応を行っています。また、情報過多ともいえる現代社会においては、科学的な根拠に基づく健康づくりや病気に関する情報の発信、いわゆる「普及・啓発」も活動の重要な役割です。

一方、健康は個人の生活だけでなく、家庭や社会とも密接な関係があります。そのため、保健師の活動は対象者個人だけではなく、その家族、さらに対象者が属する学校や職場への働きかけ、さらには住民の主體的な活動を重視した地域コミュニティ全体における健康的なまちづくりへの支援にも及んでいます。



急がれる人材確保

大規模災害、感染症拡大…高まる社会的ニーズ

熊本県が令和6(2024)年7月に発表した「くまもとの看護の現状」(2023年度版)によると、県内の保健師従事者数は、昭和63(1988)年の417人から令和4(2022)年には1,103人と約2.6倍に増加しています。そのうち約7割が自治体に従事しています。同様の傾向は全国的にも見られます。

保健師は、平成12(2000)年の介護保険制度の創設、平成20(2008)年のメタボリックシンドローム対策を強化した特定健診・保健指導の導入、地域包括ケアシステムの推進など、制度構築に伴う人材確保に向けた国からの財政措置の後押しもあり、自治体における保健医療福祉の専門職として、その数を着実に増やしてきました。

特に平成28(2016)年の熊本地震や今年1月の能登半島地震、8月

に初めて発表された巨大地震への注意喚起を促す南海トラフ地震臨時情報など、頻発する大規模自然災害に対応するためにも、専門性の高い保健師人材の確保は急務ともいえます。また、今般の新型コロナウイルス感染症パンデミック時の感染拡大防止対策を教訓とした平時・有事の対策の再構築など、保健師への社会的なニーズはこれまで以上に高まっています。

前述の「くまもとの看護の現状」が示しているように、保健所勤務の保健師が令和2(2020)年の104人から、2年後の令和4(2022)年には約1.5倍の158人と推移したことは特筆すべきことです。今後も行政機関をはじめとする各分野において、専門職業人として高い識見とスキルを持つ保健師のニーズは高まっていくでしょう。

なぜ専攻科？

時代を見据え「プロフェッショナル」養成

本学ではこれまで、学部(看護学科)教育の中で看護師教育課程と並行する形で保健師基礎教育を行ってきました(保健師養成選択制)。しかしながら、令和2(2020)年10月に発出された「保健師助産師看護師学校養成所指定規則の一部を改正する省令の交付について」において、看護師課程、保健師課程ともに総単位数が増加したことから、現状の看護師教育と選択制による保健師基礎教育との並立では、カリキュラム全体の柔軟性を奪いかねない状況が懸念されていました。

保健師教育課程における総単位数増の背景には、急速な少子高齢化の進展、医療制度構造改革による生活習慣病対策の重視、地域包括ケアの推進、社会的な格差による健康格差の顕在化といった社会状況の著しい変化があります。近年は新型コロナウイルス感染症に代表

される新興感染症のパンデミック対応や、東日本大震災、熊本地震、能登半島地震など大規模自然災害の頻発といった要因も加わり、行政機関をはじめ保健師を必要とする各分野においては、専門性の高い保健師人材の養成・確保に対する社会的な要請が高まっています。専攻科の開設は、こうした社会の要請にいち早く応えたものです。

学部教育に上乘せする形の専攻科開設は、これまで学部卒業後は実質的に断念せざるを得なかった保健師への門戸を開くことにもなります。これにより、保健師を志す明確な動機と意欲がある人たちに対して、1年間の修学期間を通じ、「プロフェッショナルの養成」を目標とした質の高い教育を行っていくことになります。

体系的な学び

単位増でカリキュラム充実

「公衆衛生看護学専攻科」という名称は、公衆衛生看護学を基礎として、保健医療福祉にかかる高度かつ専門性の高い保健師の養成を基本とすることからつけられました。

総履修単位数は現行の31単位から専攻科では33単位とし、さらなるカリキュラムの充実を図ります。内訳は専門必修科目19単位、関連必修科目8単位、臨地実習6単位です。このうち、専門領域は、公衆衛生看護の目的・対象、実践に必要な保健師の役割や専門職としての責務や倫理に加え、地域社会が抱える健康課題の解決に向けた知識や技術を学びます。

関連領域では、疫学や保健統計、保健医療福祉政策など、専門分野を支える知識を学びます。大規模災害を経験した熊本県の特徴も踏まえ、健康危機管理に関する具体的な事例も参考にしながら、体系的に学ぶことになります。

臨地実習では、行政、地域において、学内で学んだ知識と技術を統合し、公衆衛生看護の実践能力の向上を図ります。このほか、行政・福祉分野・産業保健の場で活躍する現職保健師との交流や保健師幹部からの学びなどを通じ、キャリアプランを具体化するとともに、職業アイデンティティの形成を促します。



区分	授業科目の名称	単位数	履修要件 修了要件
		必修	
専門領域	公衆衛生看護学原論Ⅰ	1	必修 19 単位
	公衆衛生看護学原論Ⅱ	1	
	対人支援方法論	2	
	対人支援技術演習	1	
	組織・コミュニティ支援方法論	2	
	地域診断演習	1	
	ライフサイクル保健活動論	2	
	障害保健福祉活動論	1	
	産業・学校保健論	1	
	産業・学校保健論演習	1	
	公衆衛生看護キャリア支援論	1	
	健康危機管理論	1	
	公衆衛生看護管理論	1	
関連領域	公衆衛生看護学研究	3	
	疫学	1	必修 8 単位
	疫学演習	1	
	保健統計学	1	
	保健統計学演習	1	
	保健医療福祉行政・政策論Ⅰ	1	
	保健医療福祉行政・政策論Ⅱ	1	
	保健医療福祉行政・政策論演習	1	
臨地実習	環境共生論	1	
	公衆衛生看護学実習Ⅰ	2	必修 6 単位
	公衆衛生看護学実習Ⅱ	3	
修了要件単位数	公衆衛生看護管理・地域包括ケア実習	1	
		33	必修 33 単位

学生インタビュー

地域に密着 魅力的な仕事



看護学科4年
保健師選択コース
藤本 朱理さん
(熊本信愛女学院高校出身)

—なぜ、保健師になりたいと思ったのですか。

新型コロナウイルスの流行で保健師の方々の活躍を目にすることが多く、興味を持ちました。また、公衆衛生看護の授業を通して、予防的介入による健康の維持・増進に取り組みたいという思いが強くなり保健師を目指しました。

—保健師選択コースでの講義や実習で印象に残ったことは。

講義では、地域の歴史や産業など一見健康と関連がないものであっても、生活や習慣に影響を与えているため、複数の視点から地域を見ることが重要であるということが印象に残っています。一方、実習では、自分たちの足で地域に出向き、直接住民の方にインタビューをすることで生活の実態を捉え、地域の強みや健康課題の分析を行ったことが印象に残っています。また、保健師との関わりを通して地域の方が生き生きとされている姿を目にすることができ、魅力的な仕事だと感じました。

—将来、どのような保健師になりたいですか。

地域に密着した保健師活動を通して、複雑化・多様化している健康課題に対応できる保健師になりたいです。また、自分から声をかけ、何事にも積極的に取り組んでいきたいです。

News & Topics

令和5年度 卒業式・修了式 コロナ禍乗り越え379人巣立つ

令和5年度の卒業式・修了式が令和6年3月15日(金)、熊本市中央区のシアーズホーム夢ホール(市民会館)であり、学部生、大学院生など計379人が思い出を胸に学び舎を後にしました。卒業式・修了式が学外で開催されるのは初。新型コロナウイルス感染対策のため、前年度まで中止あるいは学科・専攻別の開催が続いており、5年ぶりに卒業生、修了生が一堂に会した式典となりました。

竹屋元裕学長が壇上に立ち、学科・専攻、大学院、助産別科、認定看護師教育課程の各代表者に学位記・修了証書を授与。成績最優秀者などの表彰を行いました。竹屋学長は式辞の中でコロナ禍に翻弄された4年を振り返り「決して思い描いたような学園生活ではなかったかもしれないが、この貴重な経験は皆さんの医療人としての将来にとって、かけがえのない財産となるはず」とした上で、「社会の変化を的確に捉え、それぞれの課題を見据えながら、未来志向型の医療人として着実に歩みを進めて欲しい」とエールを送りました。



希望胸に大学生活スタート 令和6年度入学式

令和6年度の入学式が令和6年4月2日(火)、熊本市中央区のシアーズホーム夢ホールで行われ、学部生396人、大学院保健科学研究科17人、助産別科21人、キャリア教育研修センター 21人の計455人が、本学での学びのスタートを切りました。

竹屋学長は、本学の歴史や人生100年時代の医療人の在り方などに言及しながら、「社会の変化を的確にとらえ、それぞれの夢を見据えながら、未来志向型の医療人を目指して、着実に歩みを進めてほしい」と式辞。入学生を代表して田中陽菜さん(リハビリテーション学科言語聴覚学専攻)が「私たちは、これまでの良き伝統を継承しながら、熊本保健科学大学の学生として誇りを持ち、実りある学生生活を送ることを誓います」と宣誓しました。



2025(令和7)年4月より 保健科学部リハビリテーション学科作業療法学専攻に名称を変更

本学は、学術教育研究分野における内外の変化に対応し、現在のリハビリテーション学科生活機能療法学専攻の専攻名変更について検討を重ね、2025(令和7)年4月1日から下記の通り専攻名を変更いたします。専攻名は変更いたしますが、専攻の目的、授与する学位の変更はありません。

本専攻では、名称変更後も引き続き社会的ニーズが非常に高い優れた作業療法士の養成に努めてまいります。

1 専攻名の変更

変更前) 保健科学部リハビリテーション学科生活機能療法学専攻

変更後) 保健科学部リハビリテーション学科**作業療法学専攻**

2 変更の時期

2025(令和7)年4月1日

3 その他

- ・卒業後には、現状通り「作業療法士国家試験受験資格」を取得できます。
- ・専攻名の英語表記については、「Occupational Therapy」を現状通り使用します。

地域連携・地域活動支援が盛んな本学の強みを生かし、病院・施設に留まらない地域で活躍できる作業療法士を養成いたします。

国際シンポジウム 本学教員が成果発表

日本、韓国、タイ、フィリピンの医療・福祉系5大学による国際シンポジウム The 8th Allied Health Sciences International Symposium (AHSIS)が令和5年12月1日(金)、オンラインで開催され、本学からは医学検査学科から南部雅美教授、青木学教授、立石多貴子准教授、看護学科から甲斐村美智子講師、リハビリテーション学科言語聴覚学専攻から井崎基博准教授が参加しました。



松原誠仁教授にバイオメカニズム学会論文賞

バイオメカニズム学会誌「バイオメカニズム」26号に掲載された健康・スポーツ教育研究センターの松原誠仁教授(副センター長)の研究論文が、年間を通じて最も優秀な論文に贈られる同学会の2023年度論文賞を受賞しました。「車いす陸上競技者のための漕ぎ力計測システムの構築」と題した論文は、2015年から池内康氏(ホンダ技術研究所)、山本行文氏(熊本機能病院)と共同で進めてきた研究の成果をまとめたものです。



KMバイオロジクスと包括連携協定

本学とKMバイオロジクス(本社・熊本市北区)が令和5年12月21日(木)、学術・技術交流や人的交流の推進を目指して包括連携協定を結びました。生命科学・保健医療分野における学術と科学技術の高度化、地域の健康増進に寄与することを目的に、協定では共同研究や受託研究、研究者等の交流、学生の教育・研究など7項目での連携をうたっています。今後は、研究者や経験豊富な社員の相互受け入れや学生の教育や進路先としても関係を強化していきます。



フレイル予防の重要性を再認識 阿蘇プロジェクト発表会 高校生も測定会成果を報告

阿蘇市在住の高齢者を対象とした体力測定会の成果報告会が令和6年1月15日(月)、阿蘇市役所で開催されました。昨年2月に本学と阿蘇市、阿蘇中央高校の3者で締結した、健康寿命延伸に向けた包括連携協定の一環。昨年、阿蘇中央高校で実施された体力測定会の取り組みの成果が大学のほか、阿蘇中央高校の生徒からも報告されました。



ピア・サポら入学前の疑問に対応 「サポートQ&Aセッション」初開催

総合型および学校推薦型選抜合格者を対象とした「入学前サポートQ&Aセッション」を令和6年2月7日(水)、オンライン形式で行い、76人の合格者が参加しました。大学ではピア・サポーター 26人と教職員10人がスタンバイ。概要説明のほか、Q&Aセッションがあり、大学での勉強内容、昼食、ファッション、アルバイト、サークル活動、一人暮らしのコツ、交通手段など多岐にわたる質問が寄せられ、笑顔の中で活発な質疑応答が行われました。



高齢者の介護予防に eスポーツ導入

医療、介護、健康などの、いわゆるライフサイエンス分野の様々な研究開発を行うUXプロジェクトの成果報告イベント「UX project DEMO DAY2024」が令和6年2月28日(水)、グランメッセ熊本で開催されました。本学からはリハビリテーション学科生活機能療法学専攻の爲近岳夫准教授が熊本日日新聞社、美里町と協力して取り組んだ「eスポーツを利用した高齢者における介護予防効果の実証実験」の成果を発表しました。



水俣市、国保水俣市立総合医療センター、 水俣高校と連携協定

本学と水俣市、国保水俣市立総合医療センター、水俣高校が、地域の保健・医療・福祉の向上と人材育成に関する包括連携協定を令和6年3月18日(月)、締結しました。今後、各団体による同校への出前講義やインターンシップの受け入れ、研修受け入れなどを行っていきます。



岡教授(看護学科)に表彰状伝達 公衆衛生事業厚生労働大臣表彰

看護学科の岡順子教授が令和5年度公衆衛生事業厚生労働大臣表彰を受け、令和6年3月5日(火)、熊本県庁本館で伝達式がありました。

岡教授は県庁へ入庁後、保健師として県下初のフッ化物を応用した歯科保健の推進など、様々な先駆的取り組みを実践。県民の疾病予防や保健指導に取り組み、特定健診・保健指導や医療提供体制づくりに大きく貢献しました。



西里校区健康ウォーキング 看護学科生が参加者の血圧測定

第5回西里校区健康ウォーキングが令和6年3月3日(日)、開催されました。ウォーキング実施前と実施後には、看護学科の岡順子教授、戸渡洋子准教授の指導の下、看護学科の学生19人が参加者の血圧を測定。その他、リハビリテーション学科から健康体操を手ほどきしました。



熊本市と包括連携協定 北区住民の健康増進に一役

本学と熊本市は令和6年3月21日(木)、同市北区住民の健康増進や地域活性化に関する包括連携協定を結びました。市役所庁議室であった締結式では、大西一史市長と木下統晴理事長が協定書に署名しました。今後、本学の高度な知識と専門的技術を生かし、北区が抱える健康課題の解決などに連携して取り組んでいきます。



健康チェックコーナー大盛況

「フラワー&フーズフェスティバル」が令和6年5月3日(金)、4(土)、フードバル熊本で開催されました。本学は健康チェックコーナーを開設し、学生たちが体成分測定、骨密度測定などを実施しました。今年は2日間で379人と、昨年の138人を大幅に超える測定希望者が訪れました。「測定結果についての説明がわかりやすく勉強になりました」など嬉しい声をいただきました。



新任教職員紹介

ようこそ、熊本保健科学大学へ

医学検査学科・保健科学研究科 教授 黒田 誠 筑波大、順天堂大、そして国立感染症研究所でMRSAを初めに多様な病原体のゲノム情報解析に従事しました。臨床検体から分離・同定・ゲノミクス・情報解析までいっきに完遂できる人材を育成し、本学のゲノミクス研究の推進に貢献したいです。	医学検査学科 教授 富田 文子 医学検査学科に着任いたしました。前職では超音波検査や検査室管理に携わっておりまし。痛みや苦しみを検査により数値化・画像化することが適切な治療にはかせません。その責任とやりがいを技術と共に学生さんにお伝えしたいと思います。よろしく願い致します。	医学検査学科 教授 横山 俊朗 本年4月に医学検査学科に着任いたしました。これまでの実務経験を活かし、病理部・検査部における検査の重要性や役割を伝えていければと思っております。これより学生の皆さんと医療人に必要な研究と教育に尽力したいと思致します。よろしく願い致します。	看護学科 教授 熊谷 友記 本年4月より看護学科成人看護学慢性期領域に着任いたしました。これまで横浜で看護師として働き、その後、福岡と佐賀で大学教員として慢性期看護学教育に携わってきました。この経験を活かし、本学での教育と研究に尽力したいと思っています。
看護学科 教授 三輪 富士代 本年4月より看護学科成人看護学領域に着任いたしました。これまで臨床勤務が長く、この3月までは福岡市立こども病院で勤務しておりました。臨床、教育、管理の経験から大切と考えることを学生に伝え、本学の発展に寄与できるよう尽力してまいります。どうぞ、よろしくお願い申し上げます。	リハビリテーション学科 理学療法専攻 助教 宮崎 宣丞 昨年度の3月より理学療法専攻に着任いたしました。ウェアラブルセンサーによる歩行解析を中心に、動作解析機器の臨床応用に向けた研究に取り組んでおります。本学の健康やスポーツに関する教育や研究に尽力したいと思っています。どうぞよろしくお願い致します。	リハビリテーション学科 言語聴覚専攻 助教 佐藤 公美 4月より言語聴覚専攻に着任いたしました。長年、小児の言語・聴覚障害領域で臨床に携わり、本学では聴覚系の講義を担当いたします。これまでの経験を活かしつつ、学生が臨床をイメージできるような授業作りを心掛けたいと思致します。よろしくお願い致します。	保健科学研究科・看護学科 特任教授 前田 ひとみ 熊本大学を退職後、大学院保健科学研究科の特任教授として着任しました。専門は看護教育学と感染予防看護学です。医療者が生涯にわたり自律的・主体的に学びつづける仕掛けづくりを通して、本学の教育に貢献したいと考えています。よろしくお願い致します。
内部監査室長 濱本 高義 2023年7月に内部監査室長を拝命しました。これまでのキャリア(生物由来蛋白質の医薬品に係る研究・開発、国内外留学、大学講義及び内部監査等)を活かし、大学の夢のある未来に向けて一隅を照らせればと思致します。どうぞ、よろしくお願い致します。	総務課 米増 麻紗子 昨年11月に事務職員として入職いたしました。以前の仕事とは異なる職種で不慣れな点もありますが、周りの方々に助けていただきながら、勉強させていただいている日々です。皆様のお役に立てるよう尽力してまいりますので、どうぞよろしくお願い致します。	経理課 志垣 みどり 一般嘱託事務職員として昨年12月に入職致しました。入職までは、地方銀行に勤務しておりました。学生の方々・先生方がより良い環境で勉学や研究に取り組めるよう尽力して参ります。よろしくお願い致します。	教学支援課 清田 あゆみ 2月1日付で学科事務として共通教育センターに着任いたしました。前職でも大学職員として勤務しておりましたので、その経験を生かして、学生さんが充実した学生生活を送ることができるように精一杯サポート致します。どうぞよろしくお願い致します。
入試・広報課 藤本 真紀 3月1日より入試・広報課に配属になりました藤本真紀です。昨年まで熊本大学研究推進課URA推進室に事務補佐として勤務しておりました。熊本で仕事をするのは今回が3度目になりますが、新人の気持ちを忘れずに学園の発展のために努力してまいります。	就職・実習支援課 山口 新平 本年4月より事務職員として入職いたしました。昨年度まで医療系大学の事務職員として勤務しておりました。慣れないことも多くご迷惑をおかけするかと思いますが、本学の発展に貢献できるよう尽力してまいります。どうぞよろしくお願い致します。		

学校法人銀杏学園理事・監事・評議員一覧

(2024年5月31日時点)

理 事 長	木下 統晴	学校法人銀杏学園 理事長	評 議 員	竹屋 元裕	熊本保健科学大学 学長	評 議 員	坂崎 浩一	熊本県理学療法士協会 会長
理 事	竹屋 元裕	熊本保健科学大学 学長		榎原 真二	熊本保健科学大学 副学長		牛島 由紀雄	熊本県作業療法士会 会長
	福田 稠	熊本県医師会 会長		古閑 陽一	熊本保健科学大学 特命副学長		池田 健吾	熊本県言語聴覚士会 副会長
	榎原 真二	熊本保健科学大学 副学長		渡辺 雄一	熊本保健科学大学 学部長		馬場 秀夫	熊本大学病院 前院長
	渡辺 雄一	熊本保健科学大学 学部長		河瀬 晴夫	熊本保健科学大学 事務局長		平田 稔彦	熊本赤十字病院 院長
	河瀬 晴夫	熊本保健科学大学 事務局長		勝木 康子	熊本保健科学大学 事務局次長		米満 弘一郎	医療法人社団寿量会 熊本機能病院 理事長
	榎田 浩	一般財団法人 化学及血清療法研究所 副理事長		瀧口 巖	同窓会連合会 会長		毛利 浩一	株式会社フードパル熊本 代表取締役
	内野 誠	くまもと南部広域病院 名誉院長		原田 精一	医学検査学科同窓会 会長		杉光 定則	熊本バスケットボール(株) 顧問 株式会社SEP 代表取締役
	副島 秀久	社会福祉法人 恩賜財団 済生会支部熊本県済生会 支部長		高橋 知恵美	看護学科同窓会 会長		馬場 啓	学校法人銀杏学園 顧問・分護士
	高橋 毅	国立病院機構 熊本医療センター 院長		平尾 章悟	リハビリテーション学科同窓会 会長		榎田 浩	一般財団法人 化学及血清療法研究所 副理事長
	猪股 裕紀洋	熊本労災病院 名誉院長		池田 夕希	助産科同窓会 会長		内野 誠	くまもと南部広域病院 名誉院長
	永里 敏秋	KMバイオロジクス株式会社 代表取締役社長		福田 稠	熊本県医師会 会長		越猪 浩樹	壺溪塾水前寺校 校長
	古閑 陽一	熊本保健科学大学 特命副学長		園田 寛	熊本市医師会 会長			
監 事	林田 喜一	税理士		福吉 葉子	熊本県臨床検査技師会 副会長			
	安高 純一郎	熊本保健科学大学常勤監事		本 尚美	熊本県看護協会 会長			

令和6年度 入試結果

学科	入試区分		募集人員	志願者	区分	合格者	入学者	志願倍率	実質倍率	
医学検査学科	総合型選抜	エントリー	5	15		15				
		出願 ※1		15	タイプ A	5	5	3.0	3.0	
				(15)	タイプ B	6	6	—	—	
	学校推薦型選抜（指定校）		20	13		13	13	—	—	
	学校推薦型選抜（公募）		25	40		37	37	1.6	1.1	
	一般選抜		40	117		89	46	2.9	1.3	
	共通テスト利用（前期）		5	101		79	8	20.2	1.3	
	共通テスト利用（後期）		5	3		3	0	0.6	1.0	
学科合計		100	289		232	115	2.9	1.2		
看護学科	総合型選抜	エントリー	5	28		18				
		出願 ※1		16	タイプ A	5	5	3.2	3.2	
				(16)	タイプ B	5	5	—	—	
	学校推薦型選抜（指定校）		15	11		11	11	—	—	
	学校推薦型選抜（公募）		30	49		41	41	1.6	1.2	
	一般選抜		40	164		116	51	4.1	1.4	
	共通テスト利用（前期）		5	87		64	9	17.4	1.4	
	共通テスト利用（後期）		5	4		1	1	0.8	4.0	
学科合計		100	331		243	123	3.3	1.4		
リハビリテーション学科	理学療法学専攻	総合型選抜	エントリー	4	29		15			
			13		タイプ A	4	4	3.3	3.3	
		出願 ※1			(12)	タイプ B	4	4	—	—
				学校推薦型選抜（指定校）		12	7		7	7
		学校推薦型選抜（公募）		14	43		25	25	3.1	1.7
		一般選抜		23	71		47	34	3.1	1.5
		共通テスト利用（前期）		4	39		10	1	9.8	3.9
		共通テスト利用（後期）		3	1		0	0	0.3	0
		特別選別（社会人）		若干名	0		0	0	—	—
		専攻合計		60	174		97	75	2.9	1.8
	生活機能療法学専攻	総合型選抜	エントリー	3	8		8			
			8		タイプ A	3	3	2.7	2.7	
		出願 ※1			(8)	タイプ B	5	5	—	—
				学校推薦型選抜（指定校）		8	5		5	5
		学校推薦型選抜（公募）		9	7		7	7	0.8	1.0
		一般選抜		15	26		24	9	1.7	1.1
		共通テスト利用（前期）		3	33		32	2	11.0	1.0
		共通テスト利用（後期）		2	2		2	1	1.0	1.0
		特別選別（社会人）		若干名	0		0	0	—	—
		専攻合計		40	81		78	32	2.0	1.0
	言語聴覚学専攻	総合型選抜	エントリー	3	21		19			
			18		タイプ A	3	3	6.0	6.0	
		出願 ※1			(16)	タイプ B	13	13	—	—
				学校推薦型選抜（指定校）		8	6		6	6
		学校推薦型選抜（公募）		9	23		18	18	2.6	1.3
		一般選抜		15	29		15	10	1.9	1.9
		共通テスト利用（前期）		3	26		3	0	8.7	8.7
		共通テスト利用（後期）		2	4		1	1	2.0	4.0
		特別選別（社会人）		若干名	0		0	0	—	—
		専攻合計		40	106		59	51	2.7	1.8
	学科合計		140	361		234	158	2.6	1.5	
	保健科学部合計			340	981		709	396	2.9	1.4

※専攻合計・学科合計・保健科学部合計の人数に総合型選抜のエントリー者数は含まれません。
※1（ ）内の数はタイプB（奨学金なし）希望者の人数です。

令和6年度 学生在籍者数

5月1日現在

	保健科学部							助産別科	大学院 保健科学 研究科	キャリア教育研修センター			大学合計
	医学検査 学科	看護 学科	リハビリテーション学科				学部合計			特定行為 研修課程	認定看護師 教育課程 (脳卒中 看護分野)	認定看護師 教育課程 (認知症 看護分野)	
			理学療法学 専攻	生活機能療法学 専攻	言語聴覚学 専攻	学科合計							
1 年	121	123	79	33	51	163	407	21	17	3	7	13	468
2 年	125	131	77	39	34	150	406		18				424
3 年	117	119	62	40	29	131	367						367
4 年	108	97	39	35	41	115	320						320
計	471	470	257	147	155	559	1,500	21	35	3	7	13	1,579

学友会役員紹介

令和6年度学友会 会長 内田 拓斗さん

本年度学友会会長を務めさせていただきリハビリテーション学科理学療法学専攻3年の内田拓斗です。副会長の廣田優人(理学療法学専攻3年)、緒方光陽(理学療法学専攻2年)、他の学友会運営部役員と共に先生方をはじめ、先輩や学校の力を借りて一年間頑張っていきたいと思います。

今年度はこれまで以上に全員が参加できるような活動を増やし、学校を盛り上げられるように頑張ります。そして、さらに学年を超えた交流ができるようにしたいと考えています。学友会一番の目標は、学校行事の目玉である「杏祭」です。今年はコロナから復活して3年目の開催になりますが、さらにバージョンアップした杏祭を開催できるように頑張ります。

本学のより良いものになるように学友会運営部役員一同努めてまいります。1年間どうぞよろしくお願いします。



クラブ・サークル活動

バスケットボール部

理学療法学専攻 3年 土田 陽輝さん



私たちのバスケットボール部は、毎週水曜日の18時から21時までアリーナで活動しています。メンバーは男女合わせて約30人で、和気あいあいとした雰囲気の中でバスケットボールを楽しんでいます。初心者も気軽に参加できる環境が整っており、経験者にとっても充実した時間を過ごせるよう工夫しています。男子メンバーはインカレ予選や県内の試合、さらには練習試合にも積極的に参加しており、実戦を通じてスキルを磨いています。一方で、私たちのサークルはただ試合に勝つことだけを目指しているわけではありません。活動時間は限られているものの、メンバー同士の交流を深め、どのようにすれば試合で勝てるかを一緒に考えることが重要です。毎週の活動では、基本的な練習から戦術の確認まで幅広く行い、メンバー全員が成長できるよう心がけています。バスケットボールが好きな方、スキルを向上させたい方、友達を作りたい方、どんな目的でも大歓迎です!

私たちのサークルで、一緒に楽しい時間を過ごしませんか?興味のある方はぜひ一度見学に来てください。

BLS〈Act〉部

医学検査学科 2年 横山 さやさん

こんにちは!BLS〈Act〉部は主に1、2年生で活動しています。毎年2月にある熊本城マラソンにAED隊として参加するために、普段の活動では一次救命処置の勉強会を行っています。勉強会では人体モデルと練習用AEDを使い、実際の場面を想定して練習しています。また、時には外部の先生をお招きして講習会なども行なっています。講習会では自分達だけの活動とは違い、一次救命の実際のお話であったり簡単な応急処置の方法などを対面で教えていただいています。今年はコロナ禍も明けたので、コロナ禍前のように他の大学との合同勉強会や、地域活動への参加に力を入れていこうと考えています。

医療に携わる身として、基本的な知識はもちろん大切ですが、実践することはもっと重要です。誰かが突然倒れた時、見て見ぬふりはしたくないので、直ぐに行動できるよう力をつけています。普段の講義だけでは補えない部分をサークル活動を通して学んでいます。



新入生インタビュー

今年度の新入生に入学しての感想・
これからの抱負・楽しみにしている事etc…インタビュー！

医学検査学科



井上 梨央さん

最後に
ひとこと！

誰からも信頼される臨床検査技師になれるよう精一杯がんばります!!

Q1 熊本保健科学大学に入学しての感想は？

入学当初は友達ができるのか、大学の勉強についていけるのか多くの不安がありました。しかし、本学では先輩方や先生方とお話をする機会が多かったため、様々な言葉を頂き楽しく大学生活を送ることができています。

Q2 大学生活でやってみたいことは？

アルバイトと海外留学です。アルバイトを通して責任感を学び、コミュニケーション能力の向上を目指したいと思います。また機会があれば海外留学に参加して、異文化に触れることで視野を広げたいと思っています。

看護学科



金光 陽菜さん

最後に
ひとこと！

自分の目指す助産師になれるように、楽しい大学生活を過ごしたいと思います！

Q1 熊本保健科学大学に入学しての感想は？

初めは新しい環境の中で不安が沢山ありましたが、今では楽しい学校生活をおくっています。授業では専門の知識を沢山学び、覚えるのが大変です。友達と休み時間の時や昼食の時お話しする時間がとても楽しいです。

Q2 大学生活でやってみたいことは？

高校生の時に出来なかったアルバイトをしてコミュニケーション能力を高めることです。他にも自分の好きな歌手のライブに沢山行きたいです。学業と好きなことのどちらも充実出来るように頑張ります。

リハビリテーション学科 理学療法学専攻



花岡 真斗さん

最後に
ひとこと！

自分の目指す理学療法士になるために頑張っていきます!!

Q1 熊本保健科学大学に入学しての感想は？

最初は高校に比べてかなり大きくて綺麗な校舎だと思いました。図書館などの施設も使いやすく、気になる本を借りたり友達と勉強をしています。他にも学友会活動やサークル活動など、充実した学生生活を送っています！

Q2 大学生活でやってみたいことは？

私は学友会やサークル活動を通して、大学生にしかできない体験をしたいと考えています。また、アルバイトや旅行などで多くの人と関わることで、コミュニケーション能力や社交性などを身につけていきたいです。

リハビリテーション学科 生活機能療法学専攻



田中 那波さん

最後に
ひとこと！

患者さんや同僚からも信頼される作業療法士を目指して4年間頑張ります！

Q1 熊本保健科学大学に入学しての感想は？

新しい環境で不安なことがたくさんありましたが、今では友達もでき、充実した大学生活を送れています。生活機能療法学専攻は、人数が少ない分、とても仲が良く、団結力があります。これから同じ目標に向かってお互いに切磋琢磨し合いながら4年間頑張っていきたいです。

Q2 大学生活でやってみたいことは？

ボランティアに積極的に参加することです。ボランティアに参加して、たくさんの人と交流していく中でコミュニケーション能力を身につけていきたいです。

リハビリテーション学科 言語聴覚学専攻



椎葉 ひなたさん

最後に
ひとこと！

私の人生で一番実りある4年間にするために精一杯楽しみ、頑張ります！

Q1 熊本保健科学大学に入学しての感想は？

個性豊かで、優しい教授が多く、どの講義も楽しいため、素敵な大学生活のスタートを切ることができました。また、空き時間に一緒に勉強してくれる仲間も多く、互いに切磋琢磨できる素敵な大学だと思いました。この環境を大切に、大学生活を充実させていきたいです。

Q2 大学生活でやってみたいことは？

色々なことにチャレンジすることです。大学生活をより充実させるために、様々な活動に積極的に参加し、自分自身の成長に繋げていきたいです。そして、4年間で多くの経験をし、それを活かして「一人一人の患者様に寄り添えるSTJ」になります。

助産別科



森 遥香さん

最後に
ひとこと！

お母さんや赤ちゃんに真摯に向き合い、さらなる成長と学びを得られるよう努力したいです。

Q1 熊本保健科学大学に入学しての感想は？

看護学生として4年間を過ごしたこの大学で、また勉学に励めることを嬉しく思います。様々な年齢や経歴のクラスメイトと関わることができ、日々新しい発見が多くあります。共に切磋琢磨し、理想の助産師像の実現に向けて頑張りたいです。

Q2 大学生活でやってみたいことは？

助産別科では、授業の一環として、コンセプションケアや性教育を実施しています。対面での実施は緊張しますが、とても楽しみです。自身が教える立場として、正しい知識を提供していけるよう、より一層知識の習得に励みたいです。

大学院



飯田 一成さん

最後に
ひとこと！

臨床と研究を結びつけられるように頑張ります！

Q1 熊本保健科学大学に入学しての感想は？

母校である大学の大学院に入学できてとても嬉しく思います。臨床で感じた疑問を自らが研究できていることの楽しさを実感しています。今後は、臨床と研究を結びつけられるセラピストになりたいと思っています。

Q2 大学生活でやってみたいことは？

授業を通して、専門分野に限らず他の分野の知識も身につけることや、研究を通して、様々な学会での演題発表・論文投稿を目標に、自分自身の視野を広げ、キャリアアップを図りたいと思います。

これから共に頑張りましょう！



令和5(2023)年度 著書論文歴

【査読有】

※詳細はホームページに掲載しております (<https://www.acoffice.jp/khsuhp/KgApp>)
 ※本学の教員・学生・受入研究員には下線(順位/著者数)

著者・共著者	標題	掲載誌名	発行・発表年
Sakai Y, <u>Takeya M(17/19)</u> , Kuwahara K.(他16名)	Testicular teratogenesis from primordial germ cells with overexpression of germinal center-associated nuclear protein	Cancer Science	2023年
Kawamura Y, <u>Kawaguchi T(10/12)</u> , Sawa T.(他9名)	Helicobacter kumamotonensis sp. nov., isolated from human clinical specimens.	Int J Syst Evol Microbiol	2023年
Tokuhira M, <u>Kawaguchi T(17/17)</u> . (他15名)	Clinical management of second-generation tyrosine kinase inhibitor therapy in patients with newly diagnosed chronic myeloid leukemia in the chronic phase, focusing on age and dose effects.	Int J Hematol	2023年
Nishimura J. I, <u>Kawaguchi T(2/11)</u> , Maruyama S. (他8名)	Real-world safety profile of eculizumab in patients with paroxysmal nocturnal hemoglobinuria, atypical hemolytic uremic syndrome, or generalized myasthenia gravis: an integrated analysis of post-marketing surveillance in Japan.	Int J Hematol	2023年
Ishiyama K, <u>Kawaguchi T(3/17)</u> , Nakao S. (他14名)	A longitudinal analysis of paroxysmal nocturnal haemoglobinuria-type cells in patients with bone marrow failure: Results of a prospective multi-centre study in Japan.	Br J Haematol	2023年
Tsuchiya S, <u>Kawaguchi T(18/18)</u> . (他16名)	Management and risk factors for pleural effusion in Japanese patients with chronic myeloid leukemia treated with first-line dasatinib in real-world clinical practice.	Intern Med	2023年
Nobuyo Higashi-Kuwata, <u>Manabu Aoki(17/35)</u> , Hiroaki Mitsuya (他32名)	Identification of SARS-CoV-2 Mpro inhibitors containing P1' 4-fluorobenzothiazole moiety highly active against SARS-CoV-2	Nature Communications	2023年
<u>Manabu Aoki(1/21)</u> , Hiroaki Mitsuya(他19名)	GRL-142 binds to and impairs HIV-1 integrase nuclear localization signal and potentially suppresses highly INSTI-resistant HIV-1 variants	Science Advances	2023年
Hiroshi Tateishi, <u>Arisa Sakamoto(9/13)</u> , <u>Kensaku Anraku(13/13)</u> . (他10名)	HIV-1 Gag MA domain binds to cardiolipin in a binding mode distinct from virus assemble mediator PI(4,5)P2	Chemical biology & drug design	2023年
Nagahara N, <u>Ito T(2/2)</u> .	3-Mercaptopyruvate Sulfurtransferase: The Molecular and Functional Properties. Edited by Nagahara N, in Sulfurtransferases, essential enzyme for life.	Academic Press	2023年
Yamazaki M, <u>Ito T(7/8)</u> , Yamagata K. (他5名)	YAP/BRD4-conotrolled ROR1 promotes tumor-initiating cells and hyperporliferation in pancreatic cancer	EMBO J	2023年
Ryosuke Suzuki*, <u>Yukinori Kozuma*(2/9)</u> , <u>Kano Tanabe(4/9)</u> , <u>Ippei Noboruo(5/9)</u> , <u>Hohomi Arao(6/9)</u> , <u>Tatsuya Kawaguchi(7/9)</u> , Tetsuya Yamamoto. (*equally contribution)(他2名)	Artificial cerebrospinal fluid restores aspirin-inhibited physiological hemostasis through recovery of platelet aggregation function.	Acta Neurochirurgica	2023年
Motoki Sonohata *, <u>Atsushi Doi* # (2/7)</u> , Masaaki Mawatari. (他4名) *: Equally contributed author, #: Corresponding author	Short-term collagen nerve wrapping facilitates motor and sensory recovery from nerve degeneration in a sciatic nerve injury rat model	Journal of Pain Research	2023年
<u>Atsushi Doi # (1/15)</u> , Kyoka Oda *, Masaki Matsumoto *, Honoka Sakoguchi *, Mizuki Honda *, Yuma Ogata *, Hiroki Kameyama(13/15), <u>Min-Chul Shin(15/15)</u> . (他7名) *: Equally contributed author, #: Corresponding author	Whole body vibration accelerates the functional recovery of motor nerve components in sciatic nerve-crush injury model rats	Journal of Exercise Rehabilitation	2023年
Sakakibara N, <u>Kuboshita R(4/6)</u> , Tomoda A. (他3名)	Increased resting-state activity in the cerebellum with mothers having less adaptive sensory processing and trait anxiety.	Journal of Child and Brain Development	2023年
<u>Tanaka T(1/12)</u> , Hori O. (他10名)	ATF6 β deficiency elicits anxiety-like behavior and hyperactivity under stress conditions	Neurochemical Research	2023年
<u>Ryohei Yamamoto(1/4)</u> , Kazunori Akizuki. (他2名)	Effect of the post-learning period on the accuracy and self-efficacy of measuring the joint range of motion	Journal of Physical Therapy Science	2023年
Kazuto Yamaguchi, <u>Ryohei Yamamoto(3/5)</u> , Yukari Ohashi. (他2名)	Effects of different verbal instructions on usage of haptic guidance	COGENT PSYCHOLOGY	2023年
Kento Tanaka, <u>Keita Honda(3/4)</u> , Shin-Ichi Izumi. (他1名)	Effects of Wearing Slippers While Obstacle Crossing in Healthy Young Adults: Strategy for Toe Clearance Enhancement and Prevention of Slipper Loss	Motor control	2023年
Haruki Yaguchi, <u>Keita Honda(2/11)</u> , Shin-Ichi Izumi. (他8名)	Differences in kinematic parameters during gait between the patients with knee osteoarthritis and healthy controls using an insole with a single inertial measurement unit: A case-control study	Clinical Biomechanics	2024年

著者・共著者	標題	掲載誌名	発行・発表年
Yusuke Sekiguchi, <u>Keita Honda(3/5)</u> , Satoru Ebihara.(他2名)	Differences in kinetic factors affecting gait speed between lesion sides in patients with stroke	Front Bioeng Biotechnol	2024年
<u>Takeshi Shimamura(1/4)</u> , Hiroshi Katoh.(他2名)	Smoothness Evaluation Indices during Sit-to-Stand-to-Sit Motions in Healthy Older Females and after Hip Fracture Using an Accelerometer: A Pilot Study	Geriatrics (Basel, Switzerland)	2023年
<u>Takeshi Shimamura(1/4)</u> , Hiroshi Katoh.(他2名)	Smoothness of gait in healthy older females and patients with postoperative proximal femur fracture.	Journal of physical therapy science	2023年
<u>Kohei Kotegawa(1/4)</u> , Wataru Teramoto.(他2名)	Association between visuo-spatial working memory and gait motor imagery	Human Movement Science	2024年
Yuma Hidaka , <u>Hironori Miyata(8/13)</u> ,Mitsuru Ohishi.(他10名)	Relationship between grave visitation and apathy among community-dwelling older adults	Psychogeriatrics	2023年
Kenji Iwamura, <u>Motohiro Isaki(2/10)</u> , Yoshihiro Iwashita(8/10), <u>Junko Iwamura(9/10)</u> , Masamitsu Hyodo.(他5名)	Questionnaire survey on the conceptual framework, optimal evaluation, and support measures for children's language disorders in Japan using the Delphi method	Laryngoscope investigative otolaryngology	2023年
Kentaro Kojima, <u>Kazunori Takenaga(2/3)</u> ,Toshifumi Yamashita.	Grand gauge-Higgs unification on T^2/Z_3 via the diagonal embedding method	Phy. Rev. D	2023年
<u>Yuki Iiyama(1/4)</u> , Mitsuyo Furumura.(他2名)	Staff-rated ability to provide post-diagnosis support for patients with mild cognitive impairment and related factors	Psychogeriatrics	2023年
Murata Y, <u>Araki E(13/13)</u> .(他11名)	A Case of Autoimmune Polyglandular Syndrome Type 3 Complicated with IgG4-related Disease.	Intern Med	2023年
Toma T, <u>Araki E(8/9)</u> , Tateishi H.(他6名)	An ADAM17 selective inhibitor promotes glucose uptake by activating AMPK.	J Pharmacol Sci.	2023年
Hidenori Arai, <u>Eiichi Araki(3/9)</u> ,Shun Ishibashi.(他6名)	Efficacy and safety of pemafibrate extended-release tablet: a phase 3, multicenter, randomized, double-blind, active-controlled, parallel-group comparison trial	J Atheroscler Thromb	2023年
Bouchi R, <u>Araki E(11/21)</u> , Ueki K.(他18名)	Impact of COVID-19 pandemic on behavioral changes and glycemic control and a survey of telemedicine in patients with diabetes: A multicenter retrospective observational study.	Journal of Diabetes Investigation	2023年
Araki H, <u>Araki E(11/12)</u> , Nakao M.(他9名)	LSD1 defines the fiber type-selective responsiveness to environmental stress in skeletal muscle.	eLife	2023年
<u>Matsushima-Nagata K(1/10)</u> , <u>Anraku K(4/10)</u> , <u>Araki E(9/10)</u> , <u>Sugiuchi H(10/10)</u> .(他6名)	Relationship between remnant circulating lipoprotein cholesterol concentration, measured by homogeneous assay, and clinical parameters in patients with type 2 diabetes.	Biomolecules	2023年
Araki H, <u>Araki E(4/4)</u> .(他2名)	Updates of incretin-related drugs for the treatment of type2 diabetes.	Journal of Diabetes Investigation	2023年
<u>Shitada C(1/7)</u> , Sekizuka T, Yamamoto T.(他4名)	Comparative pathogenomic analysis reveals a highly tetanus toxin-producing clade of Clostridium tetani isolates in Japan.	ASM Journals mSphere	2023年
Akihiko Yamamoto, Masaaki Iwaki, Mitsutoshi Senoh, Akio Hatanaka, <u>Motohide Takahashi</u> . 他数名	Clinical Characteristics of Corynebacterium ulcerans Infection, Japan.	Emerg Infect Dis., 2023 Aug;29(8):1505-1515.	2023年
川口辰哉、原口実紗、山本隆敏、正代清光、上仲一義、森みずえ、井上加奈子、奥座嘉康、井崎星博、小手川耕平、水本豪、植原真二、竹屋元裕	医療系大学教職員を対象としたモデルナ社製新型コロナワクチン複数回接種による抗体獲得の評価	熊本保健科学大学研究誌21号	2024年
荒尾ほほみ、上妻行則	Rivaroxaban は凝固因子インヒビター模擬検体およびサーベイ検体として有用である	医療検査と自動化	2023年
戸渡洋子、荒木善光	看護専門科目におけるサービス・ラーニング導入効果の検討～健康調査の集計・分析・報告の実践を通して～	熊本保健科学大学研究誌21号	2024年
甲斐村美智子	コロナ禍における母親のソーシャル・キャピタルと幼児の就寝時刻およびこれらの関連	日本ウーマンズヘルス学会誌	2024年
永田千鶴、 <u>松本佳代</u> 、大野陽子	A介護老人保健施設における看取り教育研修プログラムの実践の評価	死の臨床45巻1号	2023年
前田ひとみ、 <u>伊山聡子</u> 、山本麻起子、鶴田明美、福重真美、松本智晴	看護学生の「人体の構造と機能」に対する学習方略自己評価尺度の開発	熊本大学医学部保健学科紀要	2024年
原口真由美、徳永郁子、井上加奈子、岩村純子、荒尾博美	基礎看護実習Ⅱにおける臨地実習と学内代替実習でのルーブリックによる学生自己評価の比較	熊本保健科学大学研究誌21号	2024年
申敏哲、行平崇、小牧龍二、福永貴之、田中哲子、吉村恵	坐骨神経および脊髄神経のタンパク質発現に基づくベンゾ[a]ピレン投与ラットに対するシナモンの効果	福岡医学雑誌	2023年
<u>福永貴之</u> 、小牧龍二、申敏哲	舌への触・圧、痛覚刺激が脳血管性認知症モデルラットの記憶力と細胞死に及ぼす影響	熊本保健科学大学研究誌21号	2024年

令和5(2023)年度 著書論文歴

著者・共著者	標題	掲載誌名	発行・発表年
菅野智也、東伸英、久保下亮、齊木理友、菅原慎弥、林正岳	男子サッカー選手の鼠径周辺部痛既往有無によるCam Type FAIおよびHAGOSの比較	The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine	2023年
田中貴士、浦大樹、前田拓哉、柳田寧々、三次恭平、古木ほたる、上野将紀	脳損傷における自発的・継続的な運動は加齢で低下する概日リズムと神経修復力を高める	基礎理学療法学	2023年
安田大典、山鹿敏臣、松本珠美、嶋田かをる、岩村純子、杉内博幸、友清百千、原口奈美、河瀬晴夫、植原真二	医療系私立大学における「カラーユニバーサルデザイン」の構築に向けて～(第2報) 学生へのアンケート分析結果～	臨床検査学教育	2023年
溝田勝彦、平尾文、久保温子、仙波梨沙	保育園年長児における寝返り動作と運動能力の関連	West Kyushu Journal of Rehabilitation Sciences16	2023年
仙波梨沙、久保温子、満丸望、平尾文、尾鷲百佳子、溝田勝彦	子どもの生活状況と保護者の育児ストレスに関する調査	作業療法佐賀	2024年
池寄寛人	言語聴覚士国家試験問題における出題項目の傾向分析	リハビリテーション教育研究	2023年
池寄寛人、畑添涼、兒玉成博、松原慶吾、水本豪	言語聴覚士養成課程の学生と若手言語聴覚士における自己効力感の比較	言語聴覚研究	2023年
松原慶吾、水本豪、古賀和美、池寄寛人、平江満充帆、兒玉成博、畑添涼、小園真知子、元田真一	老嚙が疑われる高齢者の特徴～サルコペニア・嚙下関連筋のサルコペニア・口腔機能・栄養状態との関連～	日本摂食嚙下リハビリテーション学会誌	2023年
濱田雄仁、宮本恵美、小手川耕平、大塚裕一	失語症者における動詞の理解力ー 多義性を親密度の視点から評価して ー	敬心・研究ジャーナル	2023年
入田真由子、水本豪、畑添涼	文字属性・単語属性に基づく書字障害の検討ー送り仮名を伴う読みを提示した際に熟語を想起して正答した頭頂葉性純粋失書の一例	言語聴覚研究	2023年
兒玉成博、井崎基博、畑添涼、竹松知紀、蓼田涼生	聴覚情報処理障害 (APD) を疑う4 症例に対する評価ー標準注意検査 (CAT) を含めた多角的評価ー	言語聴覚研究	2023年
松尾朗	言語聴覚士養成教育におけるICEアプローチを活用した実践的な授業研究ー学習評価に着目してー	リハビリテーション教育研究	2023年
園迫雅彦、水本豪	「刺激の貧困」と養育者の言語入力に関する一考察: 日本語の副詞と語順についての予備的検討	福岡言語学会50周年記念論文集 (武内梓朗ほか編、開拓社)	2024年
向井良人	不知火海沿岸地域域出郷者の〈水俣病〉経験の形成過程	熊本保健科学大学研究誌21号	2024年
山本美由紀、中村実穂、原田なをみ	思いがけない妊娠をした妊婦支援のフレームワーク作成に向けた基礎的研究ー妊娠届を提出しなかった(できなかった)孤立妊婦への助産師の関わりからー	母性衛生	2024年
飯山有紀	軽度認知障害 (MCI) 診断直後の支援ー認知症疾患医療センタースタッフが抱える困難感のインタビュー調査からー	日本認知症ケア学会誌	2023年
山鹿敏臣、嶋田かをる、杉内博幸、松本珠美、安田大典、岩村純子、河瀬晴夫、友清百千、原口奈美、植原真二	医療系私立大学における「カラーユニバーサルデザイン」の構築に向けてー教職員へのアンケート分析結果ー	臨床検査学教育	2023年
岩村純子、嶋田かをる、松本珠美、井崎基博、澤崎美香、河瀬晴夫、友清百千、原口奈美、植原真二	ピア・サポート活動の実践と今後の展望 ー熊本保健科学大学での取り組みー	熊本保健科学大学研究誌21号	2024年
池内康、山本行文、松原誠仁	車いす陸上競技者のための漕ぎ力計測システムの構築	バイオメカニズム26	2023年

【査読無】

著者・共著者	標題	掲載誌名	発行・発表年
古閑公治	第9章 生理学的検査(脳波検査、運動誘発電位検査、体性感覚誘発電位検査)	臨床検査技師 臨地実習ハンドブック	2024年
荒尾ほほみ、登尾一平、古垣達也、田邊香野、川口辰哉、鈴木保之、平松祐司、上妻行則	体外式膜型人工肺(ECMO)内に生ずる血栓の原因を探るー模擬体外循環時に増加する脱シアル化血小板の機能解析ー	人工臓器	2023年
立石多貴子	新版 臨床化学 第4版 生化学的検査	講談社サイエンティフィク	2024年
松本珠美	ポケットマスター 臨床検査知識の整理 医動物学 第2版	医歯薬出版	
原口実紗	パルスオキシメータの原理と解釈	検査と技術	2024年
井上加奈子、荒尾博美	初めて実習に臨む看護学生の学びを支援する授業の工夫	看護展望	2023年
川口弥恵子	疾患別観察ポイントBOOK part1 正常分娩	プチナース miniBOOKS	2023年
濱崎美穂、久松美佐子	看護師によるがん患者と家族のためのアドバンス・ケア・プランニング支援の文献検討	熊本保健科学大学研究誌21号	2024年
村上美華	基礎看護学テキスト 改訂第3版 IV 治癒促進と症状緩和のケア技術 ⑫タッチのケア	基礎看護学テキスト 改訂第3版	2023年
坂本淑江	看護におけるグリーフケア	熊本大学大学院 社会文化科学教育部【博士論文】	2024年

著者・共著者	標題	掲載誌名	発行・発表年
角マリ子、多久島寛孝	地域に居住する独居高齢者の現状と課題に関する文献レビュー	熊本保健科学大学研究誌21号	2024年
久保高明	必勝カコムンPTOT共通（解剖・生理・運動学）	Roundflat	2023年
久保高明	必勝カコムン作業療法士	Roundflat	2023年
久保高明	必勝カコムン理学療法士	Roundflat	2023年
久保高明	必勝カコムンPTOT共通（臨床医学）	Roundflat	2023年
岩下佳弘	最新温泉医学	一般社団法人日本温泉気候物理医学会	2023年
編著：山野克明 著者：大塚文、大橋妙子、坂本淑江、佐々木千穂、藤井可、益永佳予子	職業倫理を考える：保健・医療・介護・福祉系専門職の職業倫理を学ぶ人のために	理工図書	2023年
松尾崇史、吉瀬陽、藤原和彦	視覚的注意反応に対する単一セッションによるプリズム適応効果の汎化の検討	作業療法佐賀	2024年
吉村友希、與座嘉康、久崎孝浩	作業療法学生を対象とした精神障害領域臨床実習自己効力感尺度の作成の試み	教育システム情報学会研究報告	2023年
井崎基博	最新言語聴覚学講座 言語発達障害学	医歯薬出版	2023年
井崎基博	言語聴覚士国家試験マスターノート	メジカルビュー社（株）	2023年
中川法一（編集）、井口茂、大塚裕二、花房謙一、日高正巳、池崎寛人、光内梨佐、酒井吉仁、飯塚菜央、内山千鶴子、吉村亜樹、橋村康二、工藤絵梨果、竹井和人、岡大樹、務台均、長福佑佳、内藤佐季、小岩伸之、田籠慶一、都留貴志、山口裕之、渡邊基子、矢野智恵、長福武志、濱田浩樹、舟川和孝、加納一則、山下昌彦、山田隆介、神谷喜一、田原慎吾、佐藤佑治、小堀牧子、高木達郎、尊田英二郎、山城有一郎、浦田健太郎、半田央梨緒、竹谷剛生	PT・OT・STクリニカル・クラークシップ かんたん解説とQ&Aでお悩み解決！きつとうまいく診療参加型臨床実習	南江堂（株）	2023年
松原慶吾、熊井良彦	摂食嚥下障害の最新のトピックス：機器を用いたアプローチ 総説 マノメトリー	ディサースリア臨床研究	2023年
宮本恵美	言語聴覚士国家試験マスターノート	メジカルビュー社(株)	2023年
松尾朗	言語聴覚士国家試験マスターノート	メジカルビュー社(株)	2023年
東谷孝一	トマスを読む難しさと楽しさ ― 研究会のメンバーの一人として ―	哲学論文集	2023年
田中恵理	（プロシーディングス） モリーの独白における身体表象の書き換え	日本文学会九州支部第75回大会Proceedings（オンライン）	2023年
田中恵理	（書評） Nuala O'Connor, <i>Nora: A Love Story of Nora Barnacle and James Joyce</i>	Joycean Japan	2023年
Tanaka E	A Revaluation of Women's Bodily Descriptions in 'Penelope'	Journal of Irish Studies	2023年
飯山有紀	Section10 認知症のアセスメント	離床を10倍進めるための“活きた”Q&A シリーズ1 離床の管理・アセスメント編	2023年
飯山有紀	1章脳神経内科の症状別看護 ⑩頭痛	ブレインナーシング2023年夏季増刊	2023年
飯山有紀、内村香代子	脳卒中看護認定看護師の活動における特定行為の可能性	熊本保健科学大学研究誌21号	2024年
内村香代子	1章脳神経内科の症状別看護 ④感覚障害 ⑤けいれん ⑥嚥下障害 ⑦排泄障害	急性期から在宅まで活用できる!!脳神経内科疾患と看護・ブレインナーシング2023年夏季増刊 通巻510号	2023年
櫻井信豪、長江晴男、武田豊彦、中島秀久、蛭田修、美濃屋雅宏、庄司和壽、今井良則	医薬品添加剤GMP自主基準2022の解説 第5回	PHARM TECH JAPAN	2023年
蛭田修	資源地政学的な観点から見た医療用医薬品原薬の安定確保に関する課題	PHARM TECH JAPAN	2023年
櫻井信豪、長江晴男、武田豊彦、中島秀久、蛭田修、美濃屋雅宏、庄司和壽、今井良則	医薬品添加剤GMP自主基準2022の解説 第6回	PHARM TECH JAPAN	2023年
蛭田修	医薬品の安定確保のために企業が取るべき対応	PHARMSTAGE	2024年
畠山大祐、森克彦、宮下美知子、市来修、蛭田修	医薬品不正製造に関する行動経済学的側面からのアプローチ -不正製造例の行動経済学的行動特性の分類と要因検討-	PHARM TECH JAPAN	2024年

令和5(2023)年度 学会発表

【国際学会】

※本学の教員・研究員・学生には下線

発表者・共同発表者	発表テーマ	会議名
Manabu Aoki, Hiromi Aoki-Ogata, Haydar Bulut, Hironori Hayashi, Arun K. Ghosh, Alice K. Pau, and Hiroaki Mitsuya.	GRL-142 Binds to and Impairs HIV-1-Integrase-Nuclear Localization Signal and Exerts Potent Activity against INSTI-Resistant HIV-1	24th Kumamoto AIDS Seminar
Masami Nambu, Hiroki Kameyama, Ryo Hayashida	Effective use of past Papanicolaou smear in molecular biological tests	The 11th Taiwan, Japan & Korea Cytotechnology Joint Meeting
Arao H, Furugaki T, Tanabe K, Noboru I, Kawaguchi I, Hitamatsu Y, Suzuki Y, Kozuma Y.	Desialylation of platelet induced by neuraminidase accelerates platelet aggregation and activation.	XXXI Congress of the International Society on Thrombosis and Haemostasis
Hiroki Kameyama, Masami Nambu, Takaaki Ito	MCAF1 expression in Squamous Intraepithelial Lesion(SIL)	The 11th Taiwan, Japan & Korea Cytotechnology Joint Meeting
Ippei Noboru, Mitsuhiro Uchiba, Tatsuya Kawaguchi, Masao Matsuoka, Yukinori Kozuma.	Desialylated platelets are involved in the proliferation of HepG2 cells.	the 31st Congress of the International Society on Thrombosis and Haemostasis.
Yaeko Kawaguchi, Yasunobu Ito.	How to (Re) Define Nurses' Professionalism: An Ethnographic Study of Outpatient Nurses in a Small Clinic in Japan	14th International Conference on Applied Human Factors and Ergonomics(AFHE 2023) and the Affiliated Conferences
Miwako Hoshi, Yuko Nishida, Melissa Dyo, Takumi Yoshino, Namiko Kawamura.	An Investigation of Vulnerability of Japanese Nursing Faculty	Sigma's 34th International Nursing Research Congress
Y. Iwashita, K. Yae 1, A. Maeda, K. Nagata, H. Kameyama, J. Iiyama.	POSSIBILITY OF REDUCING DRUG-INDUCED LIVER INJURY BY THERMAL PRECONDITIONING	World Physiotherapy Congress 2023
Motohiro Isaki	Qualitative study on the effectiveness of online speech therapy for early stuttering	The 8th Allied Health Science International Symposium
Yuki Iiyama, Yuzaburo Kaba, Tomoko Kusaba, Mistuyo Furumura.	Post-diagnosis Support for Patients with Mild Cognitive Impairment at Medical Centers for Dementia	IAGG-Asia Oceania Regional Congress 2023
Takeshi HYAKUTA, Shingo KISHITA, Yasuko YOKOI, Yuki Iiyama.	Difference Between Recognition of the Importance of Nursing Care to Strengthen ADL to Stroke Patients and Its State of Implementation	EAFONS 2024

【全国学会】

発表者・共同発表者	発表テーマ	会議名
川口辰哉	「熊本地震における感染制御チームによる避難所感染制御活動とDICT普及に向けて」教育講演8.災害時の感染対策.	第97回日本感染症学会総会・学術講演会/第71回日本化学療法学会学術集会合同学会
木村勇太、得平道英、入山規良、渡邊直紀、石川真穂、中山瞳、仲里朝周、佐藤恵理子、多林孝之、三森徹、高久智生、藤田浩之、岩永栄作、安藤美樹、川口辰哉	CML-CSGデータによる付加的染色体異常を有するCML患者の解析	第85回日本血液学会学術集会
渡邊直紀、高久智生、入山規良、木村勇太、岩永栄作、三森徹、石川真穂、中山瞳、仲里朝周、藤田浩之、佐藤恵理子、多林孝之、得平道英、安藤美樹、川口辰哉	TKIで治療された日本人CML患者における血管性有害事象の新たなリスクモデルの有用性	第85回日本血液学会学術集会
岩永栄作、入山規良、木村勇太、渡邊直紀、石川真穂、中山瞳、仲里朝周、佐藤恵理子、多林孝之、三森徹、高久智生、得平道英、藤田浩之、安藤美樹、川口辰哉	チロシンキナーゼ阻害薬治療1年時点で至適奏功に至らなかった慢性骨髄性白血病予後の予後	第85回日本血液学会学術集会
中山瞳、仲里朝周、入山規良、木村勇太、渡邊直紀、石川真穂、佐藤恵理子、多林孝之、三森徹、高久智生、得平道英、藤田浩之、安藤美樹、岩永栄作、川口辰哉	チロシンキナーゼ阻害薬治療下の慢性骨髄性白血病予後における二次癌の検討	第85回日本血液学会学術集会
佐藤恵理子、岩永栄作、石川真穂、高久智生、入山規良、多林孝之、木村勇太、得平道英、渡邊直紀、三森徹、仲里朝周、中山瞳、藤田浩之、安藤美樹、川口辰哉	実臨床での慢性骨髄性白血病予後の妊娠と出産	第85回日本血液学会学術集会
入山規良、岩永栄作、木村勇太、渡邊直紀、石川真穂、中山瞳、佐藤恵理子、多林孝之、三森徹、高久智生、仲里朝周、得平道英、藤田浩之、安藤美樹、八田善弘、川口辰哉	初発CMLに対する第二世代TKIの導入が治療実態と予後に与えた影響	第85回日本血液学会学術集会
青木学、青木宏美、Haydar Bulut、林宏典、長谷川和也、高宗暢暁、岸本直樹、田中大貴、Arun K. Ghosh、町田晋一、三隅将吾、満屋裕明	HIV-1の核移行を阻害するHIV-1プロテアーゼ阻害剤の開発	第31回日本抗ウイルス療法学会学術集会・総会
古閑公治、永田和美、上仲一義	医療従事者養成校での臨地実習拡大の影響：臨床検査技師養成教育からの視点	第53回日本臨床神経生理学会学術大会
登尾一平、内場光浩、川口辰哉、松岡雅雄、上妻行則	HepG2 細胞の増殖に脱シアル化血小板が関与する	第45回日本血栓止血学会学術集会
荒尾ほほみ、古垣達也、田邊香野、登尾一平、川口辰哉、平松祐司、鈴木保之、上妻行則	模擬体外循環時に増加する脱シアル化血小板の機能解析	第45回日本血栓止血学会学術集会
荒尾ほほみ、古垣達也、川口辰哉、平松祐司、鈴木保之、上妻行則	体外式膜型人工肺（ECMO）内圧上昇の原因の解明～模擬体外循環時に増加する脱シアル化血小板に焦点を当てた研究～	第17回日本臨床検査学教育学会学術大会
荒尾ほほみ、上妻行則	Shear stress で誘発され、人工肺内圧上昇の原因となりうる脱シアル化血小板のモニタリング	日本医療検査科学会第55回大会
田邊香野、上妻行則	PP2Aファミリー分子はヒト末梢血B細胞においてIgEクラススイッチの制御に関与する	第72回日本アレルギー学会学術大会
荒尾ほほみ、古垣達也、川口辰哉、鈴木保之、平松祐司、上妻行則	体外循環時間延長に伴う術中・術後の出血傾向のメカニズム解明に挑む-模擬体外循環を用いた基礎検討-	第61回日本人工臓器学会大会

発表者・共同発表者	発表テーマ	会議名
Kano Tanabe, Yukinori Kozuma	Nerve growth factor is involved in the regulation of IgE class switch recombination in human B cells.	第52回日本免疫学会学術集会
鈴木真紀子、青柳ますみ、松本珠美、嶋田かをる、坂本秀生、宮原祥子、深澤恵治	障害のある学生をめぐる臨地実習の位置づけと課題への対応 －『臨地実習指導者講習会』での活用－	第72回医学検査学会 in GUNMA
亀山広喜、南部雅美、伊藤隆明	ヒト肺小細胞癌を用いたスフェロイド培養（3次元培養）の基礎的検討	第64回日本臨床細胞学会総会（春期大会）
亀山広喜、伊藤隆明	ヒト肺小細胞癌細胞を用いたスフェロイド培養（3次元培養）の基礎的検討	第64回日本組織細胞化学会総会・学術集会
亀山広喜、南部雅美、伊藤隆明	ヒト肺小細胞癌細胞を用いたスフェロイド（3次元培養）の基礎的検討（第2報）	第62回日本臨床細胞学会秋期大会
登尾一平、田山親吾、小寺千聡、松岡雅雄、上妻行則、内場光浩	血小板無力症症例における血小板輸血管理の新たな試み.	第71回日本輸血・細胞治療学会学術総会
登尾一平、内場光浩、川口辰哉、松岡雅雄、上妻行則	脱シアル化血小板がHepG2細胞の増殖に及ぼす影響	第45回日本血栓止血学会学術集会
塚本浩平、岡順子	健康無関心層をターゲットした予防啓発活動2年間の取り組み	第12回日本公衆衛生看護学会学術集会
戸渡洋子、荒木善光、岡順子	COVID-19が保健師実習後の技術到達目標到達度与えた影響について	第82回日本公衆衛生学会総会
戸渡洋子、荒木善光、岡順子	公衆衛生看護におけるケイパビリティアプローチ概念の適用可能性の検討-海外文献レビューを通して-	第12回日本公衆衛生看護学会学術集会
鈴木純子、一色喜保、小山千秋、窪田志穂、斉藤瑛梨、田村晴香、戸渡洋子、永井智子、中島富志子、山崎真帆、榎本晃子、川口恭子、神戸玲、武井勇介	集まろう、つながろう、話そう 今日から活かせる教育実践のあれこれ～ラダーⅠ教員と考える学生とともに育ち合う教育～	第12回日本公衆衛生看護学会学術集会
末永真由美、久松美佐子、前田則子	精神科病院がない離島で生活する精神障害をもつ人への保健・福祉従事者による支援	日本精神科看護専門学術集会
久松美佐子、末永真由美、宮本陽子、前田則子	保健・医療・福祉従事者が認識する 離島の精神障害をもつ人を取りまく状況	日本精神科看護専門学術集会
前田則子、久松美佐子、西村由実子、古川秀敏	外国人介護人材を受け入れる高齢者福祉施設の困難	第43回日本看護科学学会学術集会
久松美佐子、山下亜矢子	離島での生活を継続している精神障害をもつ人の生活の特徴	第43回日本看護科学学会学術集会
松枝美智子、増満誠、武用百子、高井真美子、江上史子、恵良友彦、安藤光子、西村和美、餅田敬司、脇崎裕子、川崎絵里香、近澤範子、川田美和、丸本典子、山岡由実、大川嶺子、永野佳世、望月花、田淵穂英、藤田愛、斎藤直毅、河添こず恵、工藤聡美、南裕子	COVID-19大規模災害（日本災害看護学会）下の看護師を対象にしたセルフケア講座実践編の開発と実践	第10回日本CNS看護学会
松枝美智子、増満誠、斎藤直毅、河添こず恵、藤田愛、工藤聡美、大川嶺子、永野佳世、脇崎裕子、山岡由実、近澤範子、川田美和、宮崎初、西村和美、江上史子、丸本典子、武用百子、恵良友彦、餅田敬司、高井真美子、安藤光子、川崎絵里香、田淵穂英、望月花、南裕子	COVID-19大規模災害下の訪問看護ステーションを対象にしたセルフケア講座BASIC編の開発と実践	第10回日本CNS看護学会
松枝美智子、大川嶺子、山岡由実、増満誠、江上史子、西村和美、脇崎裕子、宮崎初、河添こず恵	看護学生対象の心理教育教材「COVID-19大規模災害下の心身の健康とセルフケア」のブラッシュアップと普及を目指して（交流集会4）	日本看護研究学会第49回学術集会
松成裕子、江上史子、松枝美智子、増満誠、本武敏弘、前田愛、葛島慎吾	高度実践看護師の研究支援システム「研究お助けラボ」の発展に向けて（交流集会）	第43回日本看護科学学会学術集会
甲斐村美智子	熊本豪雨災害が母子のメンタルヘルスに及ぼす中期的影響	第25回日本健康支援学会年次学術大会
甲斐村美智子	月経周期に関するセルフモニタリングが女子学生に及ぼす影響	第25回日本母性看護学会学術集会
甲斐村美智子、福本久美子	子育ての肯定的感情とSCとの関連	第12回日本公衆衛生看護学会学術集会
永田千鶴、松本佳代、清永麻子、大野陽子、田中愛子	介護事業所における看取り教育研修プログラムの効果（第1報）	第44回日本死の臨床研究会年次大会
松本佳代、永田千鶴、清永麻子、大野陽子、田中愛子	介護事業所における看取り教育研修プログラムの効果（第2報）	第44回日本死の臨床研究会年次大会
吉野拓未	看護教員が臨地実習で感じる倫理的ジレンマに関する実態調査	日本看護倫理学会第16回年次大会
片山恵、伊山聡子、野寄亜矢子、清水佐知子	COVID-19ワクチン接種業務経験後に再就職した潜在看護師の復職行動に至る要因の検討（第1報）	第43回日本看護科学学会学術集会
伊山聡子、片山恵、野寄亜矢子、清水佐知子	COVID-19ワクチン接種業務経験後に再就職した潜在看護師の復職行動に至る要因の検討（第2報）	第43回日本看護科学学会学術集会
Yasuka L Yamaguchi1, Patrick PL Tam, Hiroshi Kiyonari, Satomi S Tanaka	Roles of Importin13 in mouse spermatogenesis	第56回日本発生生物学会
Yasuka L Yamaguchi, Patrick PL Tam, Hiroshi Kiyonari, Satomi S Tanaka	Roles of Importin13 in mouse germ cell development	第46回日本分子生物学会
飯山準一、古閑公治、久保高明、爲近岳夫、安田大典、渡邊智、奥川洋司、中西信之、松本圭史	1,8-cineole吸入が高齢者の脳機能に及ぼす影響	第88回日本温泉気候物理医学会総会・学術集会
飯山準一、古閑公治、奥川洋司、安田大典、久保高明、爲近岳夫、渡邊智、松本圭史、綱川光男	1,8-cineole吸入が若年成人の前頭葉機能に及ぼす影響	第87回日本温泉気候物理医学会総会・学術集会
山田しょう子、岩下佳弘、前田曙、飯山準一	温熱刺激によるMacrophageのHSP発現	第88回日本温泉気候物理医学会総会・学術集会
前田曙、栗原孝成、岩下佳弘、山田しょう子、飯山準一、向山政志	熱受容体TRPV4を介した 温熱プレコンディショニングによる シスプラチン尿細管細胞傷害の軽減	第14回腎臓リハビリテーション学会
五十嵐安沙夏、久保下亮	車いすテニスのサーブ動作における上肢筋力と関節運動との関係	第60回日本リハビリテーション医学会学術集会
久保下亮、五十嵐安沙夏	脳性麻痺児の競技用車いす走行能力と体幹活動の3次元動作解析	第60回日本リハビリテーション医学会学術集会
脇蓮太郎、村上雄紀、横山楓海、久保下亮	競技用車いすのダッシュ動作におけるピッチ走法からストライド走法に移る最適スイッチングポイントの検討	第32回日本パラスポーツ学会

令和5(2023)年度 学会発表

発表者・共同発表者	発表テーマ	会議名
菅野智也、東伸英、久保下亮、林正岳	男子サッカー選手の大腿骨前捻角と股関節筋力の関係	第7回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会
Takashi Tanaka, Mika Takarada-Iemata, Hiroshi Ishii, Tsuyoshi Hattori, Nobuo Kato, Seiichi Oyadomari, Kazutoshi Mori, Osamu Hori.	ATF6 β deficiency elicits anxiety-like behavior depend on corticotropin-releasing hormone	第46回日本神経科学大会
田中貴士、前田拓哉、柳田寧々、三次恭平、古木はたる	脳損傷モデルマウスの運動機能回復に寄与する因子の検討	第129回日本解剖学会全国学術集会
田中貴士、前田拓哉、柳田寧々、古木はたる、三次恭平	脳損傷モデルマウスの概日リズムが機能回復に及ぼす影響	第28回日本基礎理学療法学会学術大会
前田拓哉、古木はたる、三次恭平、柳田寧々、田中貴士	脳損傷モデルマウスの機能回復と自発的運動量との関係	第21回コ・メディカル形態機能学会学術集会
山本良平	理学療法学生における関節可動域測定の測定精度と自己効力感に学習後期間が及ぼす効果	第12回日本理学療法教育学会学術大会
吉村友希、與座嘉康	精神障害領域における臨床技能および臨床思考の内容を含むオンライン学内実習の報告	第36回教育研究大会・教員研修会
澁谷綾祐、本田啓太、関口雄介、菅井諒、大脇大、出江紳一	深度センサにより測定された片麻痺患者の歩行データに関する信頼性の検証	第60回日本リハビリテーション医学会学術集会
内藤大樹、本田啓太、関口雄介、出江紳一	転倒リスクの高い脳卒中片麻痺患者におけるTimed Up and Go test中の体幹運動の特徴	第60回日本リハビリテーション医学会学術集会
本田啓太、関口雄介、出江紳一	健常者の歩行時における柔らかい床面に対する適応的変化と加齢の影響	第60回日本リハビリテーション医学会学術集会
楠田賢斗、本田啓太、久保下亮、松原誠仁、久保高明	車椅子クッションの座面形状が仙骨部座面圧力に及ぼす影響	第60回日本リハビリテーション医学会学術集会
関口雄介、本田啓太、大脇大、澁谷綾祐、出江紳一、海老原寛	iPad Pro®の深度センサを用いた脳卒中片麻痺患者の歩行測定の信頼性	第21回日本神経理学療法学会学術集会
澁谷綾祐、関口雄介、本田啓太、菅井諒、大脇大、水野豊、出江紳一、海老原寛	深度センサにより測定された脳損傷後片麻痺患者の歩行データに関する信頼性の検証	第21回日本神経理学療法学会学術集会
本田啓太、関口雄介、出江紳一	脳卒中片麻痺患者患者における不安定路面歩行時の動的安定性	第21回日本神経理学療法学会学術集会
楠田賢斗、本田啓太、松原誠仁、野口大助、桑原萌、濱崎寛臣、三輪俊博、前田徹、中西俊人、二宮省悟	マーカース及び光学式動作解析装置による歩行時の下肢運動学的変数計測の併存的妥当性	第21回日本神経理学療法学会学術集会
藤本泰裕、本田啓太、松原誠仁、松崎英章、吉居啓幸	ステップ長非対称性が著明な人工股関節全置換術後患者における術後2週時点の歩行特徴	第11回日本運動器理学療法学会学術大会
瀬藤璃音、椎葉翼、牧野優花、矢加部未来、本田啓太	健常若年者におけるジャンプ着地動作時の衝撃力と等尺性足関節底屈筋力の関係	第11回日本運動器理学療法学会学術大会
矢加部未来、牧野優花、椎葉翼、瀬藤璃音、本田啓太	健常若年者における脊柱のアライメントが動的バランス能力に及ぼす影響	第11回日本運動器理学療法学会学術大会
八巻魁成、本田啓太、久保下亮、木下夏美、新井勇人、枝尾久美、荒木理恵、松原誠仁、植原真二	腹直筋厚と着地動作時における動的安定性の関係	第11回日本運動器理学療法学会学術大会
本田啓太、椎葉翼、瀬藤璃音、牧野優花、矢加部未来	ジャンプ着地動作における大腿及び下腿部の並進加速度に関する女性の特徴	第11回日本運動器理学療法学会学術大会
八巻魁成、本田啓太、久保下亮、木下夏美、新井勇人、枝尾久美、荒木理恵、松原誠仁、植原真二	膝関節傷害の既往を持つ実業団女性アスリートにおける対側健常膝の動的姿勢制御能力	第10回日本スポーツ理学療法学会学術大会
嶋村剛史、加藤浩	高齢健常女性と股関節外傷術後患者における歩行動作の滑らかさの検討	第11回日本運動器理学療法学会学術大会
白濱勲二、黒澤千尋、藤田峰子、小池友佳子、安田大典	COVID-19が地域在住高齢者の身体・認知機能、活動範囲、QOLに与えた影響	第57回日本作業療法学会
本田直、山野克明	作業療法士が有する職業倫理観に関する調査研究	第57回日本作業療法学会
伊藤文人、五十嵐祐、松尾崇史、高島理沙	コミュニティー・シートを活用した高齢者の社会的孤立・孤独の一次予防	日本心理学会第87回大会
吉村友希、戸田真志、久保田真一郎、鈴木克明	作業療法学生を対象とした臨床思考過程および臨床技能のための授業実践	日本教育工学会2023年秋季全国大会
吉村友希、戸田真志、久保田真一郎、鈴木克明	臨床思考過程教授部分に課題分析を用いて足場かけを設計した授業改善	日本教育工学会2024年春季全国大会
吉村友希、戸田真志、久保田真一郎、鈴木克明	精神障害領域の総合臨床実習を想定した治療的態度を身に付けるための授業設計と評価	第16回日本医療教授システム学会総会・学術集会
井崎基博	小学2年生における心の理論の発達と会話場面での親による心的状態の語り	第49回日本コミュニケーション障害学会学術講演会
池寄寛人、松原慶吾、宮本恵美、平江満充帆、畑添涼、兒玉成博、水本豪、太塚裕一	言語聴覚士養成課程の学生における臨床実習前の客観的臨床能力試験と自己効力感との関連性	第24回日本言語聴覚学会
末永亜紀、池寄寛人	心原性脳塞栓症に伴いGerstmann 症候群を呈し校長職への復職が可能であった一例 ～管理職としての自尊心を大切にしながら～	第24回日本言語聴覚学会
隈元将志、松原慶吾	COVID-19感染後の咽喉頭感覚低下に対する干渉波電気刺激（TESS）が有効だった一例	第29回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術集会
永友真紀	発達性計算障害1成人例における数概念と計算の障害	第47回日本高次脳機能障害学会学術総会
畑添涼、田尻裕理、水本豪、佐藤達矢	相貌失認に対する訓練による固視の変化	第47回日本高次脳機能障害学会学術総会
福元隼人、畑添涼、佐藤達矢	85歳以上の超高齢脳卒中患者に対する病棟訓練の効果	第7回日本リハビリテーション医学会秋季学術集会
松尾朗	家族支援・学習支援につなげるための学校コンサルテーションの実践ーアセスメントを通しての多職種連携ー	日本K-ABCアセスメント学会
坂本真人、竹永和典	コンバクト空間上でのスカラー場の有限温度の有効ポテンシャルを持つ非解析項について	日本物理学会第78回年次大会
伊吹唯	「『中国帰国者二世・三世』」にとつての「同化」とは	日本移民学会第33回年次大会
伊吹唯	エスニック帰還移民としての中国帰国者 一日系ブラジル人・アウスジードラーとの比較から	日本社会学会第96回大会
石田法子、上田緋沙美、内村香代子、飯山有紀	意識障害と捉えられていた症状が開眼失行であると判断できた看護の観察の視点	第50回日本脳神経看護研究学会
毎隈由佳、飯山有紀、内村香代子、山下亜希子、河口美穂	注意障害のある脳卒中急性期患者の活動と休息のバランスの調整	第50回日本脳神経看護研究学会
百田武司、木下真吾、横井靖子、飯山有紀	脳卒中患者へのADLを強化する看護ケアの実態	第43回日本看護科学学会学術集会

発表者・共同発表者	発表テーマ	会議名
飯山有紀、横井靖子、内村香代子	脳卒中患者への緩和ケアに関する文献検討	第43回日本看護科学学会学術集会
渡邊淳子	「『サラサラ作業』から『前のめり作業』への転換を目指して」（ラウンドテーブル「『双方向型の授業』を問い直す」）	初年次教育学会第16回大会（山梨学院大学）
益満美寿、川上優子、熊野陽人、安田大典、鍋木誠	子どもの身体的・心理的素養を育成するプログラムの開発	第57回日本作業療法学会
佐々木千穂、竹島久志、境信哉	音声喪失を伴う重度肢体不自由児に対する オートスキャン・マッチング練習アプリを用いた学習支援	第37回リハ工学カンファレンス in東京
佐々木千穂、竹島久志、境信哉	音声喪失を伴う重度肢体不自由児のコミュニケーション発達のための支援機器導入についての検討：4事例を通じて	第37回リハ工学カンファレンス in東京
竹島久志、熊谷栄聖、齊藤司馬、佐々木千穂、境信哉	音声喪失を伴う重度肢体不自由児コミュニケーション発達支援のためのオートスキャン・マッチング練習アプリの開発	第37回リハ工学カンファレンス in東京
佐々木千穂、竹島久志、伊藤和幸	ICTを活用したSMA0型児に対するコミュニケーション発達支援—第1報—	第11回日本難病医療ネットワーク学会学術集会
佐々木千穂	ICT機器類を使用した重症難病児のコミュニケーション発達支援機器類の選択や使用に関する現状と課題	第11回日本難病医療ネットワーク学会学術集会
蛭田修	GMP調査の目指すべき姿について	レギュラトリサイエンス学会第13回学術大会
蛭田修	医薬品の安定供給と日本薬局方の国際調和	レギュラトリサイエンス学会第13回学術大会

【地方学会】

発表者・共同発表者	発表テーマ	会議名
河野宏明、上田菜栞、内山航、清水ひな、谷口久華、中山慶亮、中野里咲、吉岡陽、 <u>正木孝幸</u>	熊本県で育成されたプロイラー盲腸便より得られたAmpCL産生菌の微生物学的検討	第57回日臨技九州支部医学検査学会
中山慶亮、上田菜栞、内山航、清水ひな、谷口久華、中野里咲、吉岡陽、河野宏明、 <u>正木孝幸</u>	熊本県で育成されたプロイラー盲腸便より得られたESBL産生菌の微生物学的検討	第57回日臨技九州支部医学検査学会
小牧龍二、福永貴之、 <u>上村太亮</u> 、柳原理久、房野良樹、申敏哲	β-NMNの投与が脳血管性認知症モデルラットに対する効果検討	第74回西日本生理学会
<u>土井篤</u>	貴方は理学療法士として将来どのようなキャリアプランを考えていますか？～その選択肢としての海外留学情報について～	九州理学療法士学術大会2023
田中貴士、浦大樹、 <u>三次恭平</u> 、柳田寧々、古木ほたる、前田拓哉、上野将紀	高齢期の自発的かつ継続的な運動は概日リズムを整え、脳損傷後の神経修復力を高める	九州理学療法士学術大会2023
田中貴士	先端科学に基づく脳損傷病態の理解と理学療法教育	九州理学療法士学術大会2023
本田啓太	講演1：脳卒中片麻痺患者の歩行安定性の障害	第28回日本神経理学療法学会サテライトカンファレンス
関口雄介、 <u>本田啓太</u> 、室井大佑、久保宏紀	総合ディスカッション：脳卒中片麻痺患者が安定した歩行を獲得するためには？	第28回日本神経理学療法学会サテライトカンファレンス
<u>本田啓太</u> 、久保下亮、八巻魁成、木下夏美、新井勇人、枝尾久美、荒木理恵、松原誠仁、植原真二	実業団女性アスリートにおける等速性膝関節屈曲・伸展筋力が片脚着地動作時の動的バランス能力に及ぼす影響	九州理学療法士学術大会2023
嶋村剛史、加藤浩	股関節外傷術後患者におけるHarmonic Ratio評価の有用性について	九州理学療法士学術大会2023
<u>山野克明</u>	作業療法士が対象者の幸福（Well-being）を促進するために求められる職業倫理について	日本医療マネジメント学会第26回熊本支部学術集会
池寄寛人、 <u>松原慶吾</u> 、宮本恵美、畑添涼、平江満充帆	言語聴覚士養成課程の学生におけるOSCE・臨床実習の成績と自己効力感との関連性	第12回日本言語聴覚士協会九州地区学術集会 大分大会
下田真由、 <u>畑添涼</u>	右後大脳動脈領域の梗塞により変形視を呈した1症例	第12回日本言語聴覚士協会九州地区学術集会 大分大会
萬野信子、 <u>畑添涼</u>	左中大脳動脈領域の梗塞で複雑幻視を呈した1例	第12回日本言語聴覚士協会九州地区学術集会 大分大会
吉本安希、木佐貫翔、河野真介、 <u>畑添涼</u> 、井崎星博	自閉症スペクトラム障害が考慮された多言語使用児の一例	第12回日本言語聴覚士協会九州地区学術集会 大分大会
<u>畑添涼</u> 、武田知里、増田正彦、 <u>水本豪</u>	多言語話者の失語症の一例	第12回日本言語聴覚士協会九州地区学術集会 大分大会
岩下佳弘、戸渡洋子、爲近岳夫、荒木善光、田中恵理、大森久光	老後の自宅生活継続のための準備状況	第34回日本老年医学会九州地方会 テーマ：老年医学と予防の未来

【研究会・シンポジウム等】

発表者・共同発表者	発表テーマ	会議名
<u>Michiko KAIMURA</u>	A ssociation of maternal child-rearing attitude with the behavior of putting infants to sleep and the sleeping habits of infants	The 8th Allied Health Science International Symposium
<u>荒尾ほほみ</u> 、 <u>上妻行則</u>	脱シアル化血小板の機能解析～模擬体外循環回路を用いた検証～	第43回阿蘇シンポジウム
<u>Takiko Tateishi</u> , <u>Kazumi Nagata</u> , Masahiro Manabe, <u>Osamu Hiruta</u>	A study of assessment items for robustness on performing serum calcium assays in clinical laboratories as a model case	The 8th Allied Health Science International Symposium
申敏哲、吉村恵	坐骨神経および脊髄神経のタンパク質 発現に基づくベンゾ[a]ピレン投与ラットに対するシナモンの効果	厚生労働行政推進調査事業-令和5年度全国油症治療研究班会議
松本雅輝、緒方裕磨、中野亜寿華、今吉恭悟、 <u>土井篤</u>	坐骨神経挫滅傷害に対する全身振動刺激がもたらす筋萎縮改善効果の検証	第176回熊本リハビリテーション研究会
迫口ほのか、本田瑞樹、小田恭歌、永尾環多、福島俊弥、 <u>土井篤</u>	坐骨神経挫滅傷害に対する全身振動刺激は坐骨神経運動成分に働きかける	第176回熊本リハビリテーション研究会
池寄寛人、松原慶吾、宮本恵美、 <u>畑添涼</u> 、平江満充帆、 <u>水本豪</u>	OSCEと臨床実習が自己効力感に与える影響～言語聴覚士養成課程の学生において～	令和5年度熊本県言語聴覚士学術研究会
田中恵理（兼司会）、高橋渡、山田幸代、安井誠	自転車に乗る女性たち ——ジョイス作品にみる身体鍛錬と女性解放（シンポジウム2 ジョイスと女性）	日本ジェイムズ・ジョイス協会 第35回研究大会
<u>志多田千恵</u>	人/動物と破傷風 ―熊本県内土壌中の破傷風菌分布調査と分離菌のゲノム解析―	第24回日本動物遺伝育種学会シンポジウム
<u>志多田千恵</u> 、関塚剛史、 <u>坂本智代美</u> 、山本明彦、黒田誠、 <u>高橋元秀</u>	破傷風菌の毒素産生能とゲノム解析	第69回トキシシンポジウム
<u>志多田千恵</u> 、関塚剛史、 <u>坂本智代美</u> 、山本明彦、橋野正紀、黒田誠、 <u>高橋元秀</u>	熊本県内の破傷風菌分布調査とゲノム解析	第43回阿蘇シンポジウム

令和5年度決算報告

学校法人銀杏学園の令和5年度決算は、令和6年5月29日開催の評議員会及び理事会において承認されましたので、事業活動収支計算書、資金収支計算書、貸借対照表を掲載し報告いたします。

①事業活動収支計算書

令和5年度の経常収支差額は+3百万円と収支均衡を達成しており、**前年比159百万円減少**でした。これは収入面で**付随事業収入が前年比158百万円減少**したこと等が原因です。

②資金収支計算書

令和5年度の翌年度繰越支払資金は2,009百万円となり、**前年比372百万円増加**でした。これは有価証券の**運用規模を前年比100百万円縮小**したこと等が原因です。

③貸借対照表

令和5年度の総資産は10,848百万円、負債872百万円、**純資産9,976百万円**となりました。これらの前年比は総資産が△87百万円、負債が△97百万円、純資産が+10百万円でした。
資金の調達と運用という視点で見ると、純資産・負債の減少87百万円が必要となった資金を、有価証券等の総資産の圧縮87百万円でまかなう運用をした、ということができます。

事業活動収支計算書要約（令和5年4月1日～令和6年3月31日）（単位：千円）

		科目	令和5年度決算	令和4年度決算	増減			科目	令和5年度決算	令和4年度決算	増減
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	2,112,245	2,046,725	65,520	特別収支	収入の部	資産売却差額	2,750	0	2,750
		手数料	34,006	34,125	△119			その他の特別収入	4,750	7,982	△3,232
		寄付金	32,825	26,308	6,517		事業活動支出の部	特別収入計	7,500	7,982	△482
		経常費等補助金	394,259	428,112	△33,853			資産処分差額	568	9,944	△9,376
		付随事業収入	66,536	224,421	△157,885			その他の特別支出	0	0	0
		雑収入	49,076	68,957	△19,881			特別支出計	568	9,944	△9,376
		教育活動収入計	2,688,947	2,828,648	△139,701		特別収支差額	6,932	△1,962	8,894	
		事業活動支出の部	人件費	1,423,024	1,398,257		24,767	〔予備費〕			
	教育研究経費		1,153,498	1,053,917	99,581	基本金組入前当年度収支差額		9,620	159,592	△149,972	
	管理経費		203,655	301,423	△97,768	基本金組入額合計		△138,950	△104,979	△33,971	
	徴収不能額等		0	0	0	当年度収支差額		△129,330	54,613	△183,943	
	教育活動支出計		2,780,177	2,753,597	26,580	前年度繰越収支差額		△2,847,096	△3,190,207	343,111	
	教育活動収支差額		△91,230	75,051	△166,281	基本金取崩額		0	288,498	△288,498	
	教育活動外収支	収入の部	受取利息・配当金	93,918	86,503	7,415	翌年度繰越収支差額		△2,976,426	△2,847,096	△129,330
その他の教育活動外収入			0	0	0	(参考)					
事業活動支出の部		教育活動外収入計	93,918	86,503	7,415	事業活動収入計		2,790,365	2,923,133	△132,768	
		借入金等利息	0	0	0	事業活動支出計		2,780,745	2,763,541	17,204	
		その他の教育活動外支出	0	0	0						
		教育活動外支出計	0	0	0						
		教育活動外収支差額	93,918	86,503	7,415						
		経常収支差額	2,688	161,554	△158,866						

資金収支計算書要約（令和5年4月1日～令和6年3月31日）（単位：千円）

収入の部				支出の部			
科目	令和5年度決算	令和4年度決算	増減	科目	令和5年度決算	令和4年度決算	増減
学生生徒等納付金収入	2,112,245	2,046,725	65,520	人件費支出	1,409,816	1,367,089	42,727
手数料収入	34,006	34,125	△119	教育研究経費支出	758,817	674,584	84,233
寄付金収入	32,793	26,260	6,533	管理経費支出	167,974	265,831	△97,857
補助金収入	394,259	431,802	△37,543	借入金等利息支出	0	0	0
資産売却収入	102,750	0	102,750	借入金等返済支出	0	0	0
付随事業・収益事業収入	66,536	224,421	△157,885	施設関係支出	12,901	198,977	△186,076
受取利息・配当金収入	93,918	86,503	7,415	設備関係支出	100,511	141,749	△41,238
雑収入	49,076	68,957	△19,881	資産運用支出	0	496,000	△496,000
借入金等収入	0	0	0	その他の支出	298,751	225,328	73,423
前受金収入	383,403	374,980	8,423				
その他の収入	96,552	141,160	△44,608				
資金収入調整勘定	△425,479	△449,450	23,971	資金支出調整勘定	△180,214	△296,932	116,718
前年度繰越支払資金	1,637,886	1,725,029	△87,143	翌年度繰越支払資金	2,009,389	1,637,886	371,503
収入の部合計	4,577,945	4,710,512	△132,567	支出の部合計	4,577,945	4,710,512	△132,567

貸借対照表要約（令和6年3月31日現在）（単位：千円）

資産の部			
科目	令和5年度末	令和4年度末	増減
固 定 資 産	8,784,828	9,197,774	△ 412,946
有形固定資産	6,400,504	6,720,441	△ 319,937
土 地	1,504,743	1,504,743	0
建 物	3,779,515	4,065,755	△ 286,240
その他の有形固定資産	1,116,246	1,149,943	△ 33,697
特 定 資 産	170,000	170,000	0
その他の固定資産	2,214,324	2,307,333	△ 93,009
流 動 資 産	2,062,742	1,737,060	325,682
現 金 預 金	2,009,389	1,637,886	371,503
その他の流動資産	53,353	99,174	△ 45,821
資産の部合計	10,847,570	10,934,834	△ 87,264

負債の部			
科目	令和5年度末	令和4年度末	増減
固 定 負 債	240,632	227,424	13,208
預り保証金	150	150	0
退職給与引当金	240,482	227,274	13,208
流 動 負 債	631,192	741,285	△ 110,093
未 払 金	177,382	292,196	△ 114,814
前 受 金	383,403	374,980	8,423
預 り 金	70,407	74,109	△ 3,702
負債の部合計	871,824	968,709	△ 96,885

純資産の部			
科目	令和5年度末	令和4年度末	増減
基 本 金	12,952,172	12,813,221	138,951
第1号基本金	12,779,172	12,640,221	138,951
第4号基本金	173,000	173,000	0
繰 越 収 支 差 額	△ 2,976,426	△ 2,847,096	△ 129,330
翌年度繰越収支差額	△ 2,976,426	△ 2,847,096	△ 129,330
純資産の部合計	9,975,746	9,966,125	9,621
負債及び純資産の部合計	10,847,570	10,934,834	△ 87,264

令和6年度予算報告

学校法人銀杏学園の令和6年度予算は、令和6年5月29日開催の評議員会及び理事会において承認されましたので、事業活動収支予算書、資金収支予算書を掲載し報告いたします。

①事業活動収支予算書

令和6年度の経常収支差額は±0百万円と収支均衡が保たれていますが**前年比3百万円減少**します。

②資金収支予算書

令和6年度の翌年度繰越支払資金は 2,200 百万円となり、**前年比 191 百万円増加**します。これは**有価証券投資や設備投資の抑制**を計画していることが影響しています。

事業活動収支予算書要約（令和6年4月1日～令和7年3月31日）（単位：千円）

		科目	令和6年度予算	令和5年度決算	増減			科目	令和6年度予算	令和5年度決算	増減
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	2,178,000	2,112,245	65,755	特別収支	収入の部	資産売却差額	0	2,750	△ 2,750
		手数料	35,000	34,006	994			その他の特別収入	0	4,750	△ 4,750
		寄付金	35,000	32,825	2,175			特別収入計	0	7,500	△ 7,500
		経常費等補助金	410,000	394,259	15,741		支出の部	資産処分差額	0	568	△ 568
		付随事業収入	71,000	66,536	4,464			その他の特別支出	0	0	0
		雑収入	50,000	49,076	924			特別支出計	0	568	△ 568
		教育活動収入計	2,779,000	2,688,947	90,053		特別収支差額		0	6,932	△ 6,932
	事業活動支出の部	人件費	1,517,636	1,423,024	94,612	〔予備費〕		30,000		30,000	
		教育研究経費	1,106,841	1,153,498	△ 46,657	基本金組入前当年度収支差額		△ 30,000	9,620	△ 39,620	
		管理経費	244,523	203,655	40,868	基本金組入額合計		△ 197,570	△ 138,950	△ 58,620	
		徴収不能額等	0	0	0	当年度収支差額		△ 227,570	△ 129,330	△ 98,240	
		教育活動支出計	2,869,000	2,780,177	88,823	前年度繰越収支差額		△ 2,976,426	△ 2,847,096	△ 129,330	
教育活動収支差額		△ 90,000	△ 91,230	1,230	基本金取崩額		0	0	0		
教育活動外収支	収入の部	受取利息・配当金	90,000	93,918	△ 3,918	翌年度繰越収支差額		△ 3,203,996	△ 2,976,426	△ 227,570	
		その他の教育活動外収入	0	0	0	(参考)					
		教育活動外収入計	90,000	93,918	△ 3,918	事業活動収入計		2,869,000	2,790,365	78,635	
	支出の部	借入金等利息	0	0	0	事業活動支出計		2,899,000	2,780,745	118,255	
		その他の教育活動外支出	0	0	0						
		教育活動外支出計	0	0	0						
	教育活動外収支差額		90,000	93,918	△ 3,918						
	経常収支差額		0	2,688	△ 2,688						

資金収支予算書要約（令和6年4月1日～令和7年3月31日）（単位：千円）

収入の部				支出の部			
科目	令和6年度予算	令和5年度決算	増減	科目	令和6年度予算	令和5年度決算	増減
学生生徒等納付金収入	2,178,000	2,112,245	65,755	人件費支出	1,517,636	1,409,816	107,820
手数料収入	35,000	34,006	994	教育研究経費支出	706,841	758,817	△ 51,976
寄付金収入	35,000	32,793	2,207	管理経費支出	207,523	167,974	39,549
補助金収入	410,000	394,259	15,741	借入金等利息支出	0	0	0
資産売却収入	100,000	102,750	△ 2,750	借入金等返済支出	0	0	0
付随事業・収益事業収入	71,000	66,536	4,464	施設関係支出	80,600	12,901	67,699
受取利息・配当金収入	90,000	93,918	△ 3,918	設備関係支出	116,970	100,511	16,459
雑収入	50,000	49,076	924	資産運用支出	100,000	0	100,000
借入金等収入	0	0	0	その他の支出	179,813	298,751	△ 118,938
前受金収入	386,000	383,403	2,597				
その他の収入	50,500	96,552	△ 46,052	〔予備費〕	30,000		30,000
資金収入調整勘定	△ 435,500	△ 425,479	△ 10,021	資金支出調整勘定	△ 159,994	△ 180,214	20,220
前年度繰越支払資金	2,009,389	1,637,886	371,503	翌年度繰越支払資金	2,200,000	2,009,389	190,611
収入の部合計	4,979,389	4,577,945	401,444	支出の部合計	4,979,389	4,577,945	401,444

目次

I 法人の概要

- 1 建学の精神、基本理念、ミッション及びタグライン
- 2 沿革
- 3 役員・評議員等
- 4 設置する学校・学部・学科等
- 5 入学定員及び学生数
- 6 教職員の概要
- 7 卒業生の概要
- 8 評議員の概要
- 9 教職員の概要
- 10 卒業生の概要

II 事業の概要

1 主な事業の内容

- (1) 全体概要
- (2) 教育に関すること
- (3) 研究に関すること
- (4) 経営に関すること

2 学生の動向

- (1) 入学試験における志願等の状況
- (2) 国家試験の合格状況
- (3) 卒業生の進路状況

III 財務の概要

- 1 事業活動収支計算書(過去5年分)
- 2 貸借対照表(過去5年分)
- 3 財務比率(過去5年分)

ここでは、II 事業の概要の「1 主な事業の内容」を紹介します。

II 事業の概要

1 主な事業の内容

(1) 全体概要

2023(令和5)年度は、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが5類に移行されたことを受けて、それまで制約を設けていた種々の大学行事(学園祭、オープンキャンパス、卒業式、校友会主催球技大会等)を通常どおり実施しました。特に、卒業式については5年ぶりに全学一斉に集う形で行うとともに、保護者の方々にも会場内でご参加いただけるように初めて学外(熊本市市民会館)で開催しました。

また、今年度は、中長期計画(2019年度～2030年度)のうちⅡ期中期計画(2023年度～2026年度)の初年度に当たるため、中期計画の進捗管理(11項目)及び各種経営課題(9項目)の検討を実行するために20のプロジェクトまたはワーキングを立ち上げ、半期ごとにその報告をすることにより、着実に計画が実行されるような仕組みを構築しました。

外部機関との連携もさらに進みました。4月の国立感染症研究所を皮切りに、天草市、スペシャルオリンピックス日本・熊本、福岡脳神経外科病院、熊本ヴォルターズ、KMIバイオロジクス株式会社、水俣市・国保水俣市立総合医療センター・水俣高校、そして熊本市と新たに協定を締結し、今後の活動の幅を広げるための基盤を築くことができました。

また、熊本サイエンスコンソーシアム(KSC)との協定に基づき、第二高校及び鹿本高校の生徒に対して合計4件の研究支援(医学検査学科2件、リハビリテーション学科2件)を行い、高大連携を加速させることができました。

(2) 教育に関すること

1) アドミッションポリシー(入学受入れ方針)に適合した入学確保

〔目標1〕学科専攻ごとの目標入学人数の確保(達成率100%)

〔目標2〕各学科専攻における志願者数の増加(対前年度比120%以上)

- ・看護学科、リハビリテーション学科理学療法専攻、同言語聴覚専攻では達成。医学検査学科、生活機能療法専攻では目標に達しなかった。全体では目標数408名(定員の120%)に対し、396名(同116%)だった。【目標1達成率97%】
- ・リハビリテーション学科言語聴覚専攻では志願者数が増加したが、全体としては、前年度比94%と減少した。【目標2達成率78%】
- ・熊本の18歳人口が底の年にあたったことを考えると最小限の減少に抑えたと言える。しかし、生活機能療法専攻の志願者確保は急務であり、他の学科・専攻についても競合校の増加など一段と厳しい環境の中にある。さらに効果的な広報とともに特色・魅力のある教育内容により他校との差別化を図っていく必要がある。

2) 質の高い医療技術者の養成

〔目標1〕適切な学外実習先の確保と連携強化による実習教育の充実

〔目標2〕各種連携事業を活用した実習等による実践力強化

〔目標3〕ダブルライセンスなどプラスアルファの資格・技能取得

- ・適切な実習先の確保と連絡・調整を密にすることにより実習教育の質を担保した。【目標1達成率100%】
- ・リハビリテーション学科を中心に水上村、阿蘇市などで実施【目標2達成率100%】
- ・医学検査学科では心電図検定など延べ151人が資格取得。リハビリテーション学科では障がい者スポーツ指導員などの資格取得を指導した。看護学科では全員が学外で地域の住民を対象に「健康教育」を実施するなど保健指導や健康教育に関する知識や技術を高めることに取り組んだ。【目標3達成率100%】

3) 各学科内での効率的な教育体制の構築

〔目標1〕若手教員の育成

〔目標2〕効率的な組織に改善するため教員組織の再編・統合の検討

- ・若手教員の育成と組織の効率化のため令和6年度から学科内の分野の設置及び教員数の標準を導入することとなった。【目標達成率100%】

4) 高水準の国試合格率と就職率の堅持

〔目標1〕90%以上かつ4年制大学新卒平均を上回る国試合格率の達成

〔目標2〕就職率100%の堅持

- ・理学療法士、言語聴覚士、助産師の合格率は100%だった。作業療法士、看護師、保健師の合格率はそれぞれ98%、97%、95%で、目標値を上回った。臨床検査技師の合格率は86.5%で今一歩だった。【目標1達成率95%】
- ・3月31日現在の進路決定率(就職+進学)は97.8%。卒業後も引き続き支援を続け100%に近づける予定。【目標2達成率99%】

(3) 研究に関すること

1) 学内共同研究の推進

〔目標1〕学内共同研究の実態とニーズの把握(アンケート実施など対計画進捗率100%)

〔目標2〕研究費補助(P&P※ Aタイプや成果発表補助)の積極的活用の促進

〔目標3〕共同実験施設(動物実験施設等)や共同実験機器(電子顕微鏡、次世代シーケンサー、フローサイトメーター等)の積極的活用による研究支援の強化(運用ルール策定など対計画進捗率100%)

- ・「研究に関するアンケート2023」を実施し、学内共同研究の実態とニーズや研究

者の要望・意見などを把握し、学術研究会議で分析を行った。次年度に要望への対応、改善策を実行する。【目標1達成率100%】

・令和5年度に採択したP&Pは以下のとおりで、Aタイプの応募が1件あったが研究テーマに関して過去の実績がないこと等の理由から今回は採択に至らなかった。

【4月着任者】2件 【追加募集】3件 【7月研修費】1件 【論文支援】1件

【2024年度P&P】新規5件 継続18件 研修費1件

・P&Pの審査については、教育・研究審査委員会を廃止して、科研費と同様の二段階書面審査(一次審査:教育研究審査委員、二次審査:学術研究会議)を導入して、効率かつ迅速な審査体制を構築した。【目標2達成率100%】

・共同実験施設や共同実験機器の利用については、運用ルールを策定して「研究活動の手引き」に掲載・周知し、積極的な利用を促した。【目標3達成率100%】

2) 研究者(特に若手)の人材育成推進と研究環境の整備

〔目標1〕研究費獲得や研究の進め方に関するコンサルテーション制度の積極的運用(対前年度実績100%)

〔目標2〕無菌室(P3実験室)の整備(対計画進捗率100%)

〔目標3〕柔軟な学内研究費運用(年度を跨いだ予算の繰上げや繰越し等)による適切な研究遂行のための支援(希望者実施率100%)

・科研費申請の支援体制として、申請書作成のためのメンター制度と相談会を実施した。メンター制度への希望者は今回いなかったが、相談会は2名行い、終了後に行ったアンケートでは肯定的な評価が得られた。【目標1対前年度実績100%】

・無菌室(P3実験室)に関しては、バイオセーフティ委員会および無菌室エリア管理部会の協力を得て、室内の環境整備および運用手順の見直しを行い、すでに運用が開始されている。【目標1対前年度実績100%】

・P&Pの前倒し申請1件、繰越申請4件について承認し、研究費を柔軟に使用できるように支援を行った。【目標3希望者実施率100%】

(4) 経営に関すること

1) 財務基盤の強化

〔目標〕収益事業の検討や寄附金・補助金獲得の強化策の実施

・寄附金獲得増のWGを立ち上げ検討を行った。現状の寄附までの流れを改めて検証し、金融機関に出向かなくて良いようにWeb上で寄附ができるシステムを導入して負担減を図った。今後はQRコードを利用したチラシも製作し広報活動を実施していく。また、OB・OGIに向けて「繋がり」を重視して公式SNSを開設するなどの施策を行い、お互いに有意義な情報を大学が発信できる仕組み作りを行う。

【目標達成率70%】

・補助金獲得増のWGを立ち上げ現行補助金の最大限の獲得をするべく検討を行い、補助金の要件や現状の対応を整理した。今後、令和9年3月までの実現に向けて、補助金全体を把握できる担当者育成のための定期的な勉強会の開催や、大学全体で国の動向や補助金概要の情報共有を行い、補助金の意図を意識した取り組みが恒常的となるよう工夫をしていく。

【目標達成率50%】

2) 管理運営・ガバナンスの強化

〔目標〕内部統制システムの充実／経営の効率性の確保(令和5年度中)

・経営の効率性を確保するために、各種経営課題や年度の重点事項についてそれぞれWGを発足し検討・推進体制を整えた。中間報告会や年度報告会などを実施し着実にPDCAサイクルを回すことを意識した取り組みを行った。

【目標達成率90%】

・内部統制WGを立ち上げ、検討した。令和7年4月1日から施行される私学法改正に伴い、理事会・評議員会等の機関設計を記載した寄附行為改正や内部統制システムの導入が必要となり、優先順位を付けて機関設計から設計中である。

【目標達成率60%】

3) 教職員組織の充実

〔目標〕更なる充実した研修制度の構築／評価制度見直し等のモチベーション向上策など(対計画進捗率100%)

・研修制度構築WGを立上げ、実施方針・実施計画を含めた制度の体系化に着手し、体系図の大枠を作成した。今後は実施方針・計画に沿った研修を実施し、教職員の能力向上を図る。

【目標達成率60%】

・評価制度の見直しについては、現行制度の課題等を整理し、令和9年3月までに制度改善やモチベーション向上につながる表彰制度の創設等を実現する。

【目標達成率20%】

4) 志願者等の詳細な分析や情報収集による、戦略的な広報活動の展開とブランド力の向上

〔目標1〕様々な媒体の活用と対面広報の強化(対計画進捗率100%)

〔目標2〕長期的な視点で小中学生などを対象とした魅力発信策を図る

(対計画進捗率100%)

・学生募集戦略においては、高校訪問や進学ガイダンスなどの対面による直接広報戦略、各業者が運営する進学サイトを活用したWeb媒体戦略、CMやTV特番、プレスリリースを活用した記事掲載などのメディア戦略など、多角的な広報戦略を展開した。特に言語聴覚学専攻では、高大連携(熊本西高校)、積極的なSNSの更新など、教員側の積極的な募集活動を展開した結果、志願者数が昨年比135%と大幅に増加するとともに、二年続いていた定員割れを回避する結果となった。

【目標達成率90%】

・将来の職種を決める時期が早期化していることから、小中学生を対象とした広報も実施した。具体的には、昨年より実施している「からだのふしぎ探検」では、参加対象を拡大している(コロナ5類移行も影響)。また、高森高校のマンガ学科とも連携して医療職に関する漫画を制作中であり、完成後には小中学生にも配布する予定である。今後は、中学生向けの出前授業を行うなど、高校生だけをターゲットにするのではなく、低年齢層も視野に入れた早期からの刷り込み広報を展開していく必要があると考える。

【目標達成率100%】

5) 健康寿命延伸など地域の課題に対して、産官学連携による先導した取り組みの推進

〔目標1〕対外窓口の設置

〔目標2〕健康スポーツ教育研究センターをはじめとした推進体制の充実

・産官学連携を推進するためにWGを立ち上げ検討を行った。経営企画室を産官学連携担当窓口とし、依頼様式や依頼時の対応フローチャートを整備した。また、連携事業時の経費についての学内算定ルールも明確化し、今後も健康・スポーツ教育研究センターをはじめとした連携推進が加速するよう事務的にサポートする体制を充実させていく。

【目標達成率90%】

・令和5年度も複数の包括連携協定を結んだが、包括連携協定等は性質上、委託契約等と比較して緩やかな連携手法であり、融通が利く機動性の高い枠組みであるが、その取組みの進捗について組織的に適切に管理する必要があるため、年度毎に計画書・報告書の提出など事業進捗のモニタリング体制を整備した。



令和6年度事業計画

学校法人銀杏学園 熊本保健科学大学 令和6年度の重点的な取組み

教 育

【令和6年度の「重点的な取組み」及び「達成目標」】

- アドミッションポリシー（入学者受入れ方針）に適合した入学者確保【目標5】
 - ⇒学科・専攻ごとの目標入学者数の確保（達成率100%）
 - ⇒各学科・専攻における志願者数の増加（総志願者数1300人）
- 質の高い医療技術者の養成【目標1】
 - ⇒適切な学外実習先の確保と連携強化による実習教育の充実
 - ⇒各種連携事業を活用した実習等による実践力強化
 - ⇒プラスアルファの資格・技能などによる他校との差別化
- 学生の主体的学びにつながる支援体制の強化【目標3】
 - ⇒SG担任のサポート内容の平準化（基準の策定）
 - ⇒高水準の進級率と規定年数内卒業率の維持（規定年数内卒業率88%以上）
- 高水準の国試合格率と就職率の堅持【目標6】
 - ⇒90%以上かつ4年制大学新卒平均を上回る国試合格率の達成
 - ⇒就職率100%の堅持

【中期計画の期間目標】★印は令和6年度の重点項目

- ★ 1) 近未来を想定したリーディング大学に相応しい教育内容の充実
- 2) 社会の要請に応える教育の質保証
- ★ 3) 主体性を尊重した学生支援
- 4) 効果的・効率的な教育の実施体制と環境整備
- ★ 5) 優秀で意欲ある入学生の確保に向けた入試制度等の再構築
- ★ 6) 高水準の国試合格率と就職率の堅持

研 究

【令和6年度の「重点的な取組み」及び「達成目標」】

- 不正使用防止計画推進室と連携した適正な研究活動の推進のための体制構築【目標4】
 - ⇒監査体制の強化（令和6年度中）
 - ⇒現行の研究費取扱い手引きの見直し及びその内容の周知徹底（令和6年度中）
- 学内共同研究の推進【目標1】
 - ⇒再構築した学内研究費制度に基づく学内共同研究の活性化（令和6年度中）
- 研究者（特に若手）の人材育成推進と研究環境の整備【目標3】
 - ⇒研究費獲得や研究の進め方に関するコンサルテーション制度の積極的運用
 - ⇒研究者へのアンケートを通じたニーズの把握と対策の構築（令和6年度中）

【中期計画の期間目標】★印は令和6年度の重点項目

- ★ 1) 本学の特徴を活かした学内研究の推進
- ★ 2) 学外研究機関等との共同研究の推進
- ★ 3) 学内研究支援体制の整備
- ★ 4) 責任ある研究活動の推進
- 5) 研究活動を通じた社会貢献の推進

経 営

【令和6年度の「重点的な取組み」及び「達成目標」】

- 財務基盤の強化【目標1】
 - ⇒既存支出の見直し（収支管理の適切な可視化）
- 管理運営・ガバナンスの強化【目標2】
 - ⇒私学法改正に沿った理事会・評議員会の機関設計や内部統制システムの整備等（対計画進捗率100%）
- 教職員組織の充実【目標3】
 - ⇒更なる充実した研修制度の構築／評価制度見直し等のモチベーション向上策など（対計画進捗率100%）
- 健康寿命延伸など地域の課題に対して、産官学連携による先導した取り組みの推進【目標5】
 - ⇒行政・企業・財団・医療機関との連携強化
 - ⇒小・中・高校との連携強化
 - ⇒令和7年度からの保健師専攻科の設置準備（対計画進捗率100%）

【中期計画の期間目標】★印は令和6年度の重点項目

- ★ 1) 財務基盤の強化
- ★ 2) 管理運営・ガバナンスの強化
- ★ 3) 教職員組織の充実
- 4) 戦略的な広報活動の展開
- ★ 5) 地域の保健（健康長寿）を先導する社会活動の推進

留学レポート

国際交流

International exchange

留学してよかったことは？



医学検査学科 4年
上野 佑さん

アメリカでの一ヶ月間は毎日が目新しく、驚きの連続でした。楽しいことや大変なことなどたくさんありましたが、全てが得難く、貴重な経験でした。
留学の中で、英語でのコミュニケーションも徐々にできるようになり、特にリスニング力や発音といった点が成長したと感じています。
また、これからグローバル化が進んでいく社会に向け、多くの異なる文化・習慣と触れ合ったことで、多様性への理解も深まり、非常に有意義なものでした。
今回、海外留学という大きな壁に挑戦し、これを乗り越えたことは私にとって大きな自信となりました。
今後もこの経験を活かし、様々なことにチャレンジしていきたいです。



Library

図書館ホームページ <https://www.kumamoto-hsu.ac.jp/library/index.html>

○**2023年度末所蔵**は、図書8万2千冊、電子ブック2千冊、雑誌980誌、電子ジャーナル1,720誌、映像データベース2種、その他データベース6種ほか。学内外から利用可能なハイブリッド図書館として冊子体と電子リソースの充実を図っています。また、通常授業の完全再開に伴い、入館者数は前年度より9千人増の5万7千人となりました。

○**夜間開館及び土曜開館**を4月から再開しました。コロナ後初の通常開館です。平日は8:50～20:30(17:00以降の利用は、学内者限定)、土曜は10:00～17:00。卒業生も貸出可能ですので、是非ご利用ください。



○4月～5月、基礎セミナー内で**文献検索講義演習**を90分×6回、開催しました。学術文献の探し方と実際の入手までを学部1年生全員対象で行い、基礎セミナーでの情報収集や今後の学修に役立つ内容としました。

図書館蔵書の中から

ー 本学教員執筆図書のご紹介 ー

『最新温泉医学：Balneology, Climatology and Physical Medicine』

飯山準一、岩下佳弘ほか著 日本温泉気候物理医学会

2023.12発行

【目次より抜粋】温泉療法の基礎、温泉医学の最新の知見、温泉入浴の病態生理、温泉医学各論―疾病の治療 ほか

配架場所：教職員著作物コーナー(NDC:492.54)

○図書館報2024年版を発行しました。図書館のホームページ「お知らせ」をご覧ください。

<https://www.kumamoto-hsu.ac.jp/library/index.html>



基本理念

本学は、「知識」「技術」「思慮」「仁愛」を四綱領とし、以下の基本理念を掲げる。

1. 保健医療分野に関する専門知識技術の教育と研究を行う
2. 人間と社会に深い洞察力を持つ人材の育成
3. 高度な知識と技術を有し、保健医療分野に貢献できる人材の育成
4. 豊かな人間性を備え、創造性に富む、活力ある人材の育成

教育目標

1. 生命の尊厳と社会への洞察力を有し、自立できる人材を育てる
2. 広い視野に立ち、課題探求力と問題解決力を有する人材を育てる
3. 医療専門職と連携協働し、自己責任の果たせる人材を育てる
4. 多様な価値観を理解し、国際的な言語運用能力と情報技術を持つ人材を育てる

将来ビジョン

保健医療系大学として、我が国のリーディング大学の一つとなる

Vision 1

社会の変化に対応し、リーダーシップを発揮できる医療技術者の養成

ビジョン 1-1

教育改革の推進と学生ファーストの修学支援

ビジョン 1-2

独創的な研究の推進と大学院の充実

Vision 2

地域に根ざし、地域と共に歩み、社会の幸福実現に貢献

ビジョン 2-1

教育・研究組織の充実

ビジョン 2-2

魅力的な教育・研究環境の充実

Vision 3

10年後も20年後も選ばれ続けるためのブランド力の強化

ビジョン 3-1

学生・教職員の国際力の向上と海外の大学等との連携強化

ビジョン 3-2

教員と職員が協働する効率的・合理的な職場環境の構築

編集後記

今号も「ぎんきょう」をお読みいただきありがとうございます。夏のうだるような暑さがほんの少しだけ和らぎ、秋の気配を感じる季節になってきました。秋の到来とともに後期授業も開始です。学内にも学生が戻ってきて賑やかな日常になりそうです。

令和7年度 熊本保健科学大学 入試概要

■ 募集人員

学 部	学 科 / 専 攻	募集人員	合 計
保健科学部	医学検査学科	100名	340名
	看護学科	100名	
	リハビリテーション学科	60名	
	理学療法学専攻	40名	
	作業療法学専攻※	40名	
	言語聴覚学専攻	40名	

※令和7年4月より、生活機能療法学専攻は作業療法学専攻へ名称を変更します。

■ 入試区分別募集人員 (保健科学部)

入試区分	総合型 選抜*	学校推薦型選抜 指定校 公募	一般 選抜	大学入学共通テスト利用選抜 前期日程 後期日程	特別選抜 社会人	合計
医学検査学科	5名	20名 25名	40名	5名 5名		100名
看護学科	5名	15名 30名	40名	5名 5名		100名
リハビリテーション学科 理学療法学専攻	4名	12名 14名	23名	4名 3名	若干名	60名
リハビリテーション学科 作業療法学専攻	3名	8名 9名	15名	3名 2名	若干名	40名
リハビリテーション学科 言語聴覚学専攻	3名	8名 9名	15名	3名 2名	若干名	40名
合 計	20名	63名 87名	133名	20名 17名	若干名	340名

* 総合型選抜タイプA (奨学金あり) の募集人員です。タイプB (奨学金なし) は、各学科・専攻ともに若干名の募集となります。

■ 入学試験日程一覧 (保健科学部)

入試区分	出 願 期 間	試験日	合格発表	入 学 手 続
総合型選抜	〈エントリー期間〉 令和6年9月1日(日)～9月9日(月)		9月18日(水)	
	〈出願期間〉 令和6年9月25日(水)～10月2日(水)	10月12日(土)	11月 1日(金)	令和6年 11月 1日(金) ～ 11月14日(木)
選 考 方 法	指定校	令和6年11月 1日(金) ～ 11月 8日(金)	11月16日(土)	12月 2日(月)
公 募				令和6年 12月 2日(月) ～ 12月13日(金)
一般選抜	令和7年 1月 6日(月) ～ 1月27日(月)	2月4日(火)	2月19日(水)	令和7年 2月19日(水) ～ 2月26日(水)
	前期日程	個別試験なし		
利 共 大 用 通 学 選 入 抜 ト 学	後期日程	令和7年 2月19日(水) ～ 2月27日(木)	3月7日(金)	3月14日(金)
選 考 方 法	社会人	令和6年10月15日(火) ～ 10月25日(金)	11月2日(土)	12月 2日(月)
				令和6年12月 2日(月) ～ 12月13日(金)

■ 入学試験日程一覧 (別科・専攻科・大学院・キャリア教育研修センター)

助産別科入試区分	出願期間	試験日	合格発表	募集人員
推薦入試	令和6年 10月15日(火) ～10月25日(金)	11月2日(土)	11月12日(火)	10名
一般入試	令和6年 11月12日(火) ～11月25日(月)	12月7日(土)	12月13日(金)	10名

公衆衛生看護学専攻科 入試区分	出願期間	試験日	合格発表	募集人員
推薦選抜	令和6年 11月12日(火) ～11月25日(月)	12月7日(土)	12月13日(金)	10名
一般選抜	令和6年 12月9日(月) ～12月20日(金)	令和7年 1月11日(土)	1月21日(火)	10名

大学院入試区分	出願期間	試験日	合格発表	募集人員
推薦選抜	令和6年 10月14日(月) ～10月25日(金)	11月2日(土)	11月15日(金)	

出願資格審査	令和6年9月30日(月)～10月9日(水)			
社会人選抜 (I期)	令和6年 10月14日(月) ～10月25日(金)	11月2日(土)	11月15日(金)	

出願資格審査	令和7年1月20日(月)～1月29日(水)			
一般選抜	令和7年 2月3日(月) ～2月14日(金)	2月22日(土)	2月28日(金)	10名

出願資格審査	令和7年1月20日(月)～1月29日(水)			
社会人選抜 (II期)	令和7年 2月3日(月) ～2月14日(金)	2月22日(土)	2月28日(金)	

キャリア教育研修センター 入試区分	出願期間	試験日	合格発表	募集人員
認定看護師教育課程 (認知症看護分野) (脳卒中看護分野)	令和6年 11月18日(月) ～12月11日(水)	令和7年 1月11日(土)	1月21日(火)	(認知症) 12名 (脳卒中) 6名
特定行為研修課程	令和6年 11月18日(月) ～12月11日(水)	令和7年 1月11日(土)	1月21日(火)	2名

入試に関するお問い合わせ

熊本保健科学大学 入試・広報課 TEL.096-275-2215 (直通)

〒861-5598 熊本市北区和泉町 325 番地 E-mail: nyushi@kumamoto-hsu.ac.jp https://www.kumamoto-hsu.ac.jp

「熊本大夢基金」 お礼とお願い

本学園では、学生の奨学・修学支援、教育環境の充実を目的として、「学校法人銀杏学園 熊本大夢基金」への寄付をお願いしております。令和5年度後期におきまして17件2,433万円の御寄付を頂きました。この場を借りて心から御礼申し上げます。

感謝の意を込め、ご芳名を掲載させていただきます。

ご芳名(令和5年度後期分、掲載御許可を頂いた方のみ、五十音順)

赤池紀生様 大里憲男様 (株)オクフィー様 (一財)化血研様 相良勝郎様 崎元達郎様

(医)仁愛会浦添総合病院様 杉光定則様 瀧口巖様 (独)労働者健康安全機構熊本労災病院様

頂いた御寄付は、学生の奨学・修学支援、教育環境の充実へ活用させていただきます。引き続き基金の趣旨に御賛同頂きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

御寄附の申込方法は「インターネットによる方法」と「書面による方法」の2つがあります。詳細につきましては公式WEBサイト <https://www.kumamoto-hsu.ac.jp/about/donation.html> を御覧頂くか、本学経理課までお問い合わせ下さい。



熊本保健科学大学では、公益財団法人日本高等教育評価機構において令和2年度大学機関別認証評価を受審し、令和3年3月16日付で同機構が定める大学評価基準に適合していることが認定されました。本学では今回の認証評価の結果を踏まえ、今後も更なる向上に努めて参ります。